

平成 27 年度

事業報告書および決算報告書

平成 27 年 4 月 1 日から

平成 28 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟

【目次】

○事業報告

I. ソフトテニスの普及振興事業

1 ソフトテニス競技規則等の制定事業	1
2 全日本ソフトテニス選手権大会等開催	1～3
3 地域ソフトテニス大会支援	3
4 加盟団体が行うソフトテニスの競技力向上と普及振興支援	3～4
5 ソフトテニスの広報活動	4～5
6 ソフトテニスの表彰・顕彰	5～18
7 ソフトテニスの技術等級・指導員資格認定に関する事業	19
8 ソフトテニスの審判員資格認定に関する事業	19～20
9 ソフトテニス用具・用品、施設の公認	20

II. ソフトテニスの競技力向上事業

1 ソフトテニスの競技力向上、医科学研究調査	21～27
2 ソフトテニスの指導者育成	27～28

III. ソフトテニスの国際振興事業

1 ソフトテニスの国際振興	28～30
---------------	-------

[各事業を推進するための組織と財政の強化]

1. 組織と財政の強化	30
1 組織と財政の強化の推進	30
2 環境と教育への取組み	30～31
3 会員登録制度の推進	31～32
4 暴力行為の根絶	32
5 2020年東京オリンピックに向けてソフトテニスを広くアピールするための広報活動	32
6 長期基本計画2012の推進	32

(庶務事項)

1 評議員会に関する事項	33
2 理事会に関する事項	33～35
3 業務執行理事会議に関する事項	35～36
4 専門委員会等に関する事項	36～38
5 役員・事務局職員に関する事項	39～43
6 会員登録制度の実施に関する事項	44
7 分担金に関する事項	44～46
8 補助金・助成金等に関する事項	46
9 寄付金・協賛金に関する事項	47
10 傷害補償制度の給付金に関する事項	47

別表 1～4 (大会一覧表・技術等級認定実績・公認審判員認定実績・会員登録実績)	48～54
--	-------

○決算報告書

1. 財務諸表等

(1) 貸借対照表	56
(2) 正味財産増減計算書	57
(3) 正味財産増減計算書内訳表	58～59
(4) 財務諸表の注記	60～61
(5) 附属明細書	62
(6) 財産目録	63

独立監査人の監査報告書	64～65
-------------------	-------

監査報告書	66
-------------	----

1 事業報告

本連盟は、昭和 58 年（1983 年度）以来、ソフトテニスの抱える現状や課題に対応すると共に、ソフトテニスの一層の普及振興を図るため、将来像の基本となる方向性を示す長期基本計画を策定し、その方針に沿って総合的かつ計画的に取り組んできた。

前長期基本計画は、平成 23 年度（2011 年度）をもってその計画期間が終了したため、計画の達成状況や課題を踏まえて、平成 24 年度（2012 年度）から平成 28 年度（2016 年度）を計画期間とする「ソフトテニス長期基本計画 2012」を策定し、新たにスタートした。

平成 27 年度の事業遂行にあたっては、「ソフトテニス長期基本計画 2012」の 4 年目の年と位置付け、ソフトテニスの普及振興を図り、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的として、計画の達成状況を確認し、計画の実現に向けて公益財団法人として、高い社会的信用を維持し、次の諸事業を積極的かつ効果的に実施した。

I. ソフトテニスの普及振興事業

1. ソフトテニス競技規則等の制定事業

(1) ソフトテニス競技（ダブルス・シングルス）を実施するために必要な競技規則を定めることを目的として、ソフトテニスの振興と競技性の向上等、より安全に楽しく競技できるよう、ソフトテニスハンドブック（競技規則・審判規則・大会運営規則）やジュニア審判マニュアル等に反映するための検討をした。

- ① ジュニア低学年用の審判マニュアルを作成し各支部に配布した。
- ② 講習内容の統一と審判員の資質向上を図るため、審判講習会用資料（パワーポイント）を活用した。
- ③ 競技規則の改訂の検討を進めた。

公共施設を活用するにあたり、ソフトテニスとテニスが異なる施設基準となっているため、様々な場面で不都合が生じているので、安全性を考慮しつつ施設基準（アウトコート）を共通化するためテニス競技基準と統合案について検討した。

(2) 日本で発祥した競技であることから、国際ソフトテニス連盟（以下 ISTF）やアジアソフトテニス連盟（以下 ASTF）における中心的なリーダー国として国際競技規則との整合性を図ると共に、英語版審判技術マニュアル(DVD)等を活用して国際普及を推進した。

- ① 国際競技規則の改訂の検討を進めた。
世界各国に設置されているテニスコートに合わせた施設基準(アウトコート)に改訂し、国際大会の実施に支障が無いようにすることを ISTF に提言すべく統合案について検討した。

2. 全日本ソフトテニス選手権大会等開催

(1) 国内競技会を大会実施要項に基づき実施した。

- ① 別表 1 (P48～51) のとおりの大会日程および会場で実施した。

② 大会要項の改訂を実施した。

・国民体育大会についての対応

ア．平成 27 年度の和歌山国体からシングルスを実施した。

イ．全種別へ監督を配置し、他種別との兼務はしないこととした。

ウ．種別参加チーム数のローテーションを実施した。

③ 日本スポーツ振興センターの助成事業として以下の大会を実施した。

ア．JOC ジュニアオリンピックカップ大会／全日本ジュニア選手権大会 助成金 1,198,000 円

イ．天皇賜杯皇后賜杯全日本選手権大会 助成金 2,248,000 円

ウ．第 8 回アジア選手権大会日本代表選手予選会 助成金 1,213,000 円

(2) 大会の検討と大会運営の改善

① 全日本選手権大会の検討

・NHK 放送を考慮した会場の基準や進行等を工夫して「するスポーツ」と「見るスポーツ」双方を向上させるための検討を継続し、放映時間を 60 分から 90 分に延長できた。

② 新規全日本大会の検討

・以下の新規大会創設の案を策定し、開催の検討を行った。

ア．全日本社会人団体選手権大会

実業団とクラブチームによる大会の検討を行った。

イ．全日本団体総合選手権大会

高校、大学、社会人の代表による大会の検討を行った。

ウ．全日本混合ダブルス選手権大会

全日本シニア選手権大会から独立し、一般、成年種別を含めた大会とする方向で検討した。

③ JOC ジュニアオリンピックカップ大会／全日本ジュニア選手権大会

・ダブルス種目追加の検討を行い、27 年度から実施した。

④ 全日本シングルス選手権大会

・参加枠の変更の検討し、具体案を作成した。

⑤ 北海道の大会参加枠を改訂

・支部とブロックの重複の是正を検討し、27 年度から以下の大会で改訂した。

全日本シングルス選手権、全日本社会人選手権大会、全日本選手権大会

⑥ 日本スポーツマスターズの充実

・日本スポーツマスターズに全都道府県の参加を目指してアンケートを実施し、大会の充実を図るため日程の検討と参加者の負担軽減等を検討した。

・32 支部×@100,000 円の助成を行い、28 年度から@150,000 円に増額することを決定した。

・日程を 3 日間から 2 日間への変更を検討した。

⑦ 大会参加申込のシステム化

・平成 24 年度からの主催大会の参加申込システム活用により、参加資格のチェック等による事務負担の軽減と参加申込の効率化を図った。併せて支部大会申込のシステムを完成させ、平成 27 年度から活用出来るようにした。

- ⑧ 主催大会開催地への支援
 - ・主催大会を主管し、実質的に運営している開催地の決算・運営状況等を的確に把握し、主要事業である大会が円滑に運営されるように支援した。
- ⑨ 主催大会運営における役割分担の明確化
 - ・円滑な大会運営を行うため日本連盟と主管支部の大会開催にあたっての役割分担の明確化について検討した。
- ⑩ ゼッケンの統一化
 - ・日本連盟主催大会において、ゼッケンを着用してプレーをしている選手が誰からもわかるようにした。
 - ・中学生については、平成 26 年度より日本ソフトテニス連盟仕様に統一に向けて取り組み、平成 28 年度に統一を完了する。高校生についても平成 26 年度日本ソフトテニス連盟仕様に統一に向けて協議し、平成 27 年度高校総体において統一した。
- ⑪ 簡易得点板の設置
 - ・日本連盟主催大会において簡易得点板の設置を開始し、進行状況が誰でもわかるように進めた。

3. 地域ソフトテニス大会支援

(1) 地域等における競技会開催に、次のとおり補助を行った。

- ① 9 地区選手権大会
 - ・9 地区×200,000 円を助成した。
- ② 地区高校選抜大会
 - ・9 地区×100,000 円を助成した。
- ③ 地区中学選手権大会
 - ・9 地区×100,000 円を助成した。
- ④ 全日本シニア東西対抗大会
 - ・400,000 円を助成した。
- ⑤ 全日本学生同好会大会
 - ・200,000 円を助成した。

4. 加盟団体が行うソフトテニスの競技力向上と普及振興支援

(1) 地域グループ育成のため、次の事業を実施した。

- ① 地域クラブ・ジュニアクラブ等の育成
 - ・地域クラブ、ジュニアクラブ等の育成の充実を図ることを目的として、各支部に対し会員登録料から下記の率により助成した。
(一般 20%、高校生 10%、高専 10%、中学生 20%、小学生 50%)
- ② 支部中学校大会への補助
 - ・45 支部×@30,000 円を助成した。
- ③ 支部小学生大会への補助

- ・46支部×@30,000円を助成した。
- ④ ソフトテニス週間の実施
 - ・10月の体育の日(月)を中心とした週(金曜日から木曜日)をソフトテニス週間として定め、全国で一斉にソフトテニスを楽しみアピールした。
 - 46支部×@100,000円を助成した。(継続)
- ⑤ ソフトテニス愛好者増加対策
 - ・中学校部活動引退後の練習場所を確保し、引退後もプレーできる環境を提供し、またレディースを含めた社会人を対象として支部が実施する愛好者増加対策事業を支援した。
 - 47支部×@150,000円を助成した。(継続)
 - ・日本連盟で作成した指導教本(DVD BOOK)を活用して、愛好者増加に不可欠な指導者に指導法を提供し、愛好者の指導に貢献、協力してもらった。
- ⑥ 指導者バンク(地域)の活用促進
 - ・積極的に指導者バンク(地域)を活用し、競技者育成プログラム(Step-1,2)の推進および、中学校・高校の指導者不足を解消する等、普及を担う指導者を確保・活用した。
- ⑦ 総合型地域スポーツクラブの研究
 - ・ソフトテニス総合型地域スポーツクラブに参画するための研究を進めた。
- ⑧ 傷害補償制度の徹底
 - ・制度の目的、主旨を会員報・ホームページ等を利用して分かり易く伝え制度活用の推進を図った。

5. ソフトテニスの広報活動

(1) メディア対策

① 新聞報道の充実

- ・話題性のある広報を積極的に行うためにどうすべきかとの観点より、報道機関とのコンタクトを行った。
- ・新聞報道対応マニュアルを活用した。

② テレビ放映の充実

- ・平成13年から継続している全日本選手権大会のNHKテレビ放送を15回連続実現、放映時間も60分から90分に延長となった。

(2) ホームページの運営

① ホームページ等の充実

- ・日本連盟ホームページの充実と積極的活用を行った。
- ・日本連盟テレビ局及び各支部テレビ局の映像を通して、積極的な動画配信の広報活動を展開した。
- ・過去の日本連盟主催大会の映像が、いつでも見られるように動画ライブラリーを推進し効果的広報を展開した。
- ・日本連盟ホームページ(英語版)とアジア連盟ホームページから国際情報を積極的に発信した。

(3) 広報誌発行

① 機関誌「ソフトテニス」の毎月発行

- ・内容の充実と購読者募集を行った。

購読者数	支部購読	1,289名	個人購読	254名
(平成26年度)	支部購読	1,370名	個人購読	294名

② 会員報を年2回発行した。

③ 平成27年大会記録集を作成し、支部・報道機関等へ配布した。

(4) 「ソフトテニスの歌」の活用

- ・日本連盟主催事業での活用と、全国各地域での普及を図った。
- ・ソフトテニスの歌「ウイニングショット」とソフトテニス応援歌「青空背負って」の周知を図った。

(5) ソフトテニスのアピールと周知

① ソフトテニスの映画「案山子とラケット」の上映および非劇場上映への案内

- ・2020年の東京オリンピックを見据え、ソフトテニスを広くアピールするために制作したソフトテニスの映画「案山子とラケット」を4月4日より全都道府県の映画館にて一斉公開した。
- ・劇場公開終了後も、映画を見ることができなかった方々等を対象に劇場以外の非劇場にて上映することを決め、都道府県連盟への連絡、ホームページでの紹介を行った。具体的な非劇場での上映は平成28年以降を予定している。

② ソフトテニスの指導教本(DVD BOOK)・漫画を通してのソフトテニスの普及活動

- ・映画とともにソフトテニスを広くアピールするために作成した指導教本(DVD BOOK)・漫画の全国1,500の書店を通しての販売を継続し、ソフトテニスの普及活動に努めた。

③ マスコットキャラクター「そふていー」を通してのソフトテニスのアピール

- ・平成27年3月の都道府県対抗全日本中学生大会、全国小学生大会より大会会場にてデビューしたマスコットキャラクター「そふていー」を引き続き小学生の大会、中学生の大会およびその他の大会等に登場させ、ソフトテニスを広くアピールした。

6. ソフトテニスの表彰・顕彰

平成27年12月6日の評議員会に先立ち、平成27年度の表彰式を執り行い87名の個人及び43団体の受賞に対して、本部功労者の石川雅利氏(千葉県)が表彰盾を、支部功労者を代表して鈴木敏雄氏(神奈川県)、優良団体を代表して花田一弥氏(和歌山県)、優秀監督および最優秀選手を代表して熊谷直美氏(埼玉県)、ランキング選手を代表して森田奈緒氏(ヨネックス)に西村信寛副会長から賞状等を授与した。

表彰の内訳は、次のとおりである。

1 本部功労賞	1名
2 支部功労賞	87名
3 優良団体	43団体
4 優秀監督	20名
5 優秀選手	14名

6 ランキング	508名
7 日本スポーツ賞	1チーム(9名)
8 JOC ジュニアオリンピックカップ	2名
9 国際大会入賞者	18名

[表彰者名簿]

1. 本部功労者 石川雅利 (日本連盟理事、千葉県連盟理事長)
2. 支部功労者 別紙参照
3. 優良団体 別紙参照
4. 優秀監督

最優秀監督	実業団	男子	堀 晃大 (NTT西日本広島)
		女子	橋本 孝明 (ワタキューセイモア)
	大学	男子	小野寺 剛 (早稲田大学)
		女子	小野寺 剛 (早稲田大学)
	高校	男子	小牧 幸二 (上宮高校)
		女子	林 三千夫 (和歌山信愛高校)
	中学	男子	小牧 幸二 (上宮中学校)
		女子	熊谷 直美 (芝東中学校)
	小学生	男子	石田 隆秀 (兵庫県)
		女子	花園 智弘 (東京都)
優秀監督	実業団	男子	玉岡 良仁 (京都市役所)
		女子	百町 善明 (タカギセイコー)
	大学	男子	北山 敏隆 (同志社大学)
		女子	武田 博子 (東京女子体育大学)
	高校	男子	玉川 裕司 (三重高校)
		女子	野口 英一 (文化学園大学杉並高校)
	中学	男子	渡邊 輝幸 (多治見中学校)
		女子	霜山 淳一 (野津中学校)
	小学生	男子	田中 正明 (山形県)
		女子	大頭 弘義 (兵庫県)
5. 優秀選手

最優秀選手	男子	篠原秀典・小林幸司 (日体桜友会・ミズノ)
	女子	森田奈緒・山下ひかる (ヨネックス)
優秀選手	男子	村上雄人・中本圭哉 (NTT西日本広島)
	女子	北浦有華・松本英里佳 (ワタキューセイモア)

敢闘選手 男子 船水颯人・星野慎平（早稲田大学）

女子 小林奈央・佐々木聖花（早稲田大学）

木村理沙・平久保安純（早稲田大学）

6. ランキング選手 別紙参照

7. 日本スポーツ賞 第15回世界選手権大会日本男子代表チーム

8. JOC ジュニアオリンピックカップ

最優秀選手 男子 船水颯人（早稲田大学）

女子 尾上胡桃（日本体育大学）

9. 国際大会入賞者 別紙参照

平成27年度 支部功労者・優良団体

	支部名	支部功労者	支部功労者	優良団体
1	北海道	藤坂 信彦	安藤 英明	帯広ソフトテニス連盟
2	青森	成田 努	谷川 松義	八戸ナイトテニスクラブ
3	岩手	宮 勸	君塚 圭一	一関市ソフトテニス協会
4	宮城	佐藤 貞夫	及川 仁男	JST仙台
5	秋田	遠藤 敏勝	栗林 直美	能代山本ジュニアソフトテニススポーツ少年団
6	山形	長瀬 重信	安孫子 秀次	酒田ソフトテニススポーツ少年団
7	福島	菊田 茂男	小林 慎司	福島STクラブ
8	茨城	園部 文子	松浦 京子	水戸ソフトテニススポーツ少年団
9	栃木	小西 康之	岡崎 裕	栃木県立宇都宮工業高等学校ソフトテニス部
10	群馬	安田 直之	丸山 昌弘	群馬町ジュニアソフトテニス倶楽部
11	埼玉	北田 賢司	木村 眞敏	所沢ペアアートテニスクラブ
12	千葉	伊藤 信夫	松崎 実	松戸市ママさんソフトテニス連盟
13	東京	下和田 貴之	皆呂 充亮	文化学園大学杉並高等学校
14	神奈川	佐藤 到	鈴木 敏雄	横浜創英高等学校
15	山梨	石塚 紀郎	大木 純	甲府市立甲府商業高等学校女子ソフトテニス部
16	新潟	阿部 芳和	若林 功	新潟県中学校体育連盟ソフトテニス専門部
17	長野	太田 和子	中野 信子	上田市ソフトテニススポーツ少年団
18	富山	細木 誠	境 弘毅	高岡西高等学校女子ソフトテニス部
19	石川	奥原 外茂栄	中島 義春	—————
20	福井	小林 俊明	品川 満	福井商業高等学校女子ソフトテニス部
21	静岡	平川 召八	鈴木 義勝	浜松テニックス
22	愛知	富田 喜彦	山中 久代	朝日STC
23	三重	大久保 浩行	—————	津ジュニアソフトテニスクラブ
24	岐阜	高井 義次	多和田 治郎	土岐クラブ
25	滋賀	中村 寿紀	二矢 清孝	—————
26	京都	内藤 幹夫	渋谷 三郎	宇治市ソフトテニス連盟
27	大阪	石原 誉久	山田 栄子	旭クラブ
28	兵庫	井上 宏明	橋本 靖彦	姫路ジュニアクラブ
29	奈良	高野 光子	脇田 保子	奈良市立都南中学校
30	和歌山	山本 均	古田 清和	紀ノ川クラブ
31	鳥取	山口 宏志	—————	鳥大L. Cat
32	島根	錦織 慶直	—————	松江市立第四中学校男子ソフトテニス部
33	岡山	大岸 博昭	小野 尚彦	粒江ソフトテニスクラブ
34	広島	吉田 毅	山本 葉子	マインドクラブ
35	山口	福田 光正	森脇 保雅	宇部ソフトテニス連盟
36	徳島	戸川 邦夫	一ツ松 由至	うずしおクラブ
37	香川	北村 浩一	—————	善通寺コスモス
38	愛媛	小村 博	小倉 大輔	今治市立北郷中学校女子ソフトテニス部
39	高知	野町 裕	筒井 千誉	土佐高等学校
40	福岡	—————	—————	—————
41	佐賀	森 通紘	杉本 征子	佐賀工業高等学校
42	長崎	山下 健一郎	山本 郁夫	—————
43	熊本	橋本 知佳子	川内 昭一郎	天草市立本渡北小学校
44	大分	岡田 悦則	松岡 政義	大志生木ソフトテニスクラブ
45	宮崎	村橋 秀逸	大坪 拓也	スターキッズ
46	鹿児島	牧口 和義	帯田 博文	イーグルクラブ
47	沖縄	名嘉 恒守	—————	名護高等学校ソフトテニス部
48	日本学連	—————	—————	—————
49	高体連	—————	—————	—————
50	中体連	—————	—————	—————
	合計		87名	43団体

平成27年度 ソフトテニスランキング

総 合 男 子				総 合 女 子			
1	篠原 秀典 小林 幸司	東京	日体桜友会 ミズノ	1	森田 奈緒 山下 ひかる	東京	ヨネックス
2	村上 雄人 中本 圭哉	広島	N T T西日本広島	2	北浦 有華 松本 英里佳	京都	ワタキューセイモア
3	船水 颯人 星野 慎平	日本学連	早稲田大学	3	小林 奈央 佐々木 聖花	日本学連	早稲田大学
4	船水 雄太 九島 一馬	日本学連	早稲田大学	3	木村 理沙 平久保 安純	日本学連	早稲田大学
5	内本 隆文 丸山 海斗	高体連	上宮高校	5	小谷 菜津美 大槻 麗	福島	ダンロップ
6	安藤 優作 安藤 圭祐	日本学連	早稲田大学	6	中川 瑞貴 阿部 悠梨	東京	ナガセケンコー
7	丸中 大明 鈴木 琢巳	日本学連	中央大学	7	宮代 恵実 石井 友梨	京都	ワタキューセイモア
7	桂 拓也 塩寄 弘騎	和歌山	和歌山県庁	8	杉脇 麻侑子 上原 由佳	日本学連	早稲田大学
9	稲積 京之介 井口 雄一	東京 宮崎	ミズノ スマッシュエイグチクラブ	9	生田 遥夏 星山 茜	日本学連	神戸松蔭女子学院大学
10	青木 雅彦 後藤 渉	愛知	三菱電機	10	富田 真愛 小林 美咲	広島	どんぐり北広島
10	村田 匠 中村 匡起	日本学連	日本体育大学				
10	吉田 雄紀 宮田 裕章	岐阜	太平洋工業				

平成27年度 ソフトテニスランキング

社 会 人 男 子				社 会 人 女 子			
1	村上 雄人 中本 圭哉	広島	NTT西日本広島	1	北浦 有華 松本 英里佳	京都	ワタキューセイモア
2	桂 拓也 塩 寄 弘 騎	和歌山	和歌山県庁	2	宮代 恵実 石井 友梨	京都	ワタキューセイモア
3	増田 健人 柴田 章平	和歌山 京都	和歌山県庁 同志社クラブ	3	吉川 明見 端地 まどか	和歌山	きのくに信用金庫
3	吉田 雄紀 宮田 裕章	岐阜	太平洋工業	3	中川 瑞貴 阿部 悠梨	東京	ナガセケンコー
5	品川 貴紀 杉尾 卓馬	福井 岐阜	福井STクラブ 大鹿印刷	5	小谷 菜津美 大槻 麗	福島	ダンロップ
5	日高 大貴 産屋敷 恭兵	東京	東京ガス	5	柿崎 あやの 神谷 絵梨奈	東京	ヨネックス
5	山田 拓真 南郷 周英	岩手	見前STC	5	齊藤 ひなの 熊井 瞳	鹿児島	城山観光ホテル
5	古賀 崇史 峯松 健太朗	和歌山 大阪	教友クラブ 上宮OBクラブ	5	深澤 昭恵 泉谷 朋香	兵庫	東芝姫路

成 年 男 子				成 年 女 子			
1	濱口 昇 今村 義美	愛知 香川	名古屋アカエムクラブ なかよしクラブ	1	高井 志保 吉崎 香奈絵	大阪 京都	吹田クラブ B-JOKER
2	新田 貴徳 横石 智	徳島	徳島市役所 徳島抽栄会	2	足利 奈央 岡 夕香	岡山	クラレ岡山
3	片峯 俊和 篠原 和彦	福岡	T O T O	3	上村 知栄子 宮崎 由佳子	和歌山 大阪	L . C . C R I S E
3	石井 靖浩 平井 勝己	岡山 愛知	JX日鉱日石エネルギー水島 デンソー	3	藤岡 友子 奥山 奈美	埼玉	岩槻すみれ 浦和テニス

平成27年度 ソフトテニスランキング

シニア男子45				シニア女子45			
1	中島 通晴 浪越 淳文	静岡 山梨	浜松市役所 新星クラブ	1	宮尾 真由美 鈴木 節子	埼玉 東京	所沢ペアート 日亜化学工業
2	梅根 裕一 濱田 武徳	北海道 埼玉	札幌学院クラブ 川口市役所	2	太田 郁子 池上 京子	長野	飯田 S T A 伊那 S T A
3	瀬古 沢 栄 清水 俊晴	千葉	船橋クラブ	3	片山 順子 中牟田 千恵	福岡	福大クラブ
3	石井 靖浩 平井 勝己	岡山 愛知	JX日鉱日石エネルギー水島 デンソー	3	山本 有美 福士 聡子	東京	杉並文化クラブ ミドウクラブ

シニア男子50				シニア女子50			
1	千野 一也 堀越 晴夫	山梨 東京	甲府市役所 板橋倶楽部	1	鈴木 明美 江口 京子	新潟 埼玉	長岡レモンクラブ 川口クラブ
2	菊池 治秀 牧野 憲一	千葉 東京	松戸市役所 旭クラブ	2	平山 友美 岡野 妙子	兵庫	今津クラブ 三田クラブ
3	倉橋 邦男 海口 真	広島	楽クラブ 広島中央クラブ	3	北中 あけみ 山本 美樹	大阪	箕面サングリーン 吹田クラブ
3	加藤 健治 藤井 忠彦	愛知	葵クラブ 知立連盟	3	佐藤 咲代子 益子 益代	茨城	鹿島ソフトテニスクラブ 日立はまゆう

シニア男子55				シニア女子55			
1	新沼 宏之 石田 肇	埼玉 福岡	浦和あづまクラブ 新日鐵八幡	1	安達 伸子 江利角 富美子	大分	スポーツマンシップ
2	木村 眞敏 上田 孝春	埼玉	本庄クラブ 川口市役所	2	丹羽 和紀江 近藤 あい子	愛知	けやきクラブ
3	黒岩 真次 平 智和	宮崎 長崎	宮崎クラブ 南島原市連盟	3	浦 みどり 柏原 敦子	兵庫	今津クラブ 明石レディス
3	松舟 智明 谷本 満裕	愛知 徳島	ウィングクラブ 大神子病院	3	小野寺 真智子 渡辺 笑美子	宮城	けやきクラブ

シニア男子60				シニア女子60			
1	沼田 義雄 白石 宅男	熊本	宇土クラブ 帯山クラブ	1	高橋 道子 金野 英子	埼玉	所沢ペアート ふじみ野 O T A
2	松村 俊介 石川 雅利	熊本 千葉	松橋クラブ 市川クラブ	2	増田 加奈 荻谷 さと志	愛知	岡崎バード 一宮花・花
3	大森 国義 中村 弘志	東京 神奈川	千寿クラブ 湘南クラブ	3	新保 康子 深谷 美佐子	千葉	流山ママクラブ 佐倉クラブ
3	松本 良彦 守屋 孝夫	東京	赤門クラブ 世田谷テニス	3	大丸 美秋 中原 孝子	広島	がんばろう会

平成27年度 ソフトテニスランキング

シニア男子 65				シニア女子 65			
1	袴田 文雄 菅野 勝郎	秋田 岩手	能代支部 陸前高田市協会	1	小谷 苑子 夏原 麗子	東京 千葉	葛飾クラブ 浦安会
2	常久 正則 直原 隆司	岡山 広島	岡山南高クラブ 広友会	2	池田 ヒロミ 比嘉 ふみ代	東京	三鷹軟庭クラブ チームNARO
3	小野 栄 近藤 清	埼玉 栃木	浦和あづまクラブ 西那須野クラブ	3	中山 善枝 佐藤 芳子	大阪	サンレディース
3	辻 憲三 東 好顕	和歌山 大阪	教友クラブ 堺連盟	3	松田 孝子 丸尾 典子	大阪	サンレディース 堺ミルフィーズ

シニア男子 70				シニア女子 70			
1	木藤 勝敏 熊田 章甫	大阪 岐阜	大阪OB軟庭会 TEAM KUMA	1	鎌田 寛子 杉内 昭代	愛媛 徳島	愛媛県レディース協会 徳島庭球倶楽部
2	石川 延房 岩本 義久	静岡	富士ファミリークラブ 静岡クラブ	2	横野 久美子 渡辺 伸江	愛知	すみれクラブ
3	金尾 洋 石倉 豊	埼玉	川越初雁クラブ	3	岡 容子 石川 明子	静岡	沼津グリーンクラブ 富士ファミリークラブ
3	小松代 智夫 小島 晃	東京	旭テニスクラブ 杉並文化クラブ	3	高羽 邦子 山田 悦子	大阪	堺ミルフィーズ 東大阪アミー

シニア男子 75				シニア女子 75			
1	野間 浩 関屋 博美	福岡	新日鐵八幡 たいこうクラブ	1	喜利 ミナ子 加藤 鈴子	京都	洛西クラブ EFTクラブ
2	荒川 長彌 大滝 正榮	茨城	日立SST 日立クラブ	2	堀越 孝江 前平 和子	東京 埼玉	東京アーデル 川口クラブ
3	辻井 平三 平野 雄司	大阪	ゴーセン 南大阪クラブ	3	宮崎 久子 杉本 征子	佐賀	佐賀県レディース連盟
3	森本 弘祐 石井 勝治	千葉	湖北台クラブ 浦安会	3	竹内 靖子 宮村 知江	埼玉	大宮クラブ 浦和けやきクラブ

シニア男子 80				シニア女子 80			
1	若林 博之 中野 雅文	兵庫	三木クラブ 宝塚クラブ	1	大久保 初子 関 寿子	愛知 東京	すみれクラブ 寿美礼クラブ
2	余田 尚正 森 武三	大阪 広島	八尾市協会 福山シニアクラブ	2	内海 静枝 板摺 トキエ	東京 広島	世田谷 広島LC
3	塩野 正 大塚 敬三	山梨	山梨シニアクラブ	3	若林 光子 木下 幸	岡山 滋賀	岡山カトレア さざなみレディース
3	堤 国彦 明井 雄二	京都	朝霧クラブ 同志社クラブ	3	柿崎 良子 藤樫 わか子	青森 東京	ソフト青森クラブ 小金井クラブ

平成27年度 ソフトテニスランキング

シニア混合 4 5				シニア混合 5 0			
1	山本 有美 堀越 晴夫	東京	杉並文化クラブ 板橋倶楽部	1	中山 広子 川野辺 武	埼玉	天沼ファミリー 久喜栗橋テニス
2	濱田 英明 花園 安紀	東京	練馬ソフト 杉並文化クラブ	2	高倉 理美 荻野 和彦	茨城	日立はまゆう 日立・日高
3	小野川 昭彦 古川 公子	広島	広島中央クラブ リボン会	3	近藤 幸春 平形 明美	愛知	西尾協会
3	岩山 真樹 大神 勝喜	石川	加賀グリーンクラブ	3	染谷 啓子 小林 浩司	千葉	小金原クラブ

シニア混合 5 5				シニア混合 6 0			
1	大谷 美佐 谷本 満裕	徳島	阿南クラブ 大神子病院	1	増田 加奈 小川 博	愛知	岡崎バード 三菱名古屋
2	谷山 義寛 谷山 由香利	愛知	豊田 Team YUKARI	2	沼田 義雄 沼田 ムツ子	熊本	宇土クラブ
3	玉井 勉 高岡 幸子	広島 愛媛	藤の木クラブ 愛媛レディース協会	3	大嶋 良弥 細野 敦子	岐阜	多治見クラブ 大垣早起会
3	春日 君江 佐藤 敏和	東京	武蔵野クラブ 八王子市役所	3	長澤 輝雄 宮越 由美子	埼玉	浦和あづまクラブ 川口クラブ

シニア混合 6 5			
1	近藤 清 藤田 ヤス	栃木	西那須野クラブ 大田原クラブ
2	杉内 昭代 福田 寛巳	徳島 鳥取	徳島庭球倶楽部 鳥取久松クラブ
3	杉山 泰久 中谷 順子	埼玉	所沢ペアート
3	八木澤 友江 八木澤 義宏	茨城	日立はまゆう 茨城フリー

平成27年度 ソフトテニスランキング

ジュニアシングルスU - 14 男子				ジュニアシングルスU - 14 女子			
1	矢野 颯人	和歌山	西和中学校	1	佐古 香織	愛知	加木屋中学校
2	藤久 雄士	兵庫	荒井中学校	2	浅見 今日子	広島	広島修道大学附属鈴峯女子中学校
3	池口 季将	奈良	王寺中学校	3	杉山 歌音	広島	広島修道大学附属鈴峯女子中学校
3	濱田 祐	和歌山	西和中学校	3	根岸 楓英奈	大阪	昇陽中学校

ジュニアシングルスU - 17 男子				ジュニアシングルスU - 17 女子			
1	上松 俊貴	岡山	岡山理科大学附属高校	1	笠井 菜々子	広島	広島修道大学附属鈴峯女子高校
2	高倉 和毅	東京	早稲田実業高校	2	福田 麗優	三重	三重高校
3	上岡 俊介	大阪	上宮高校	3	清水 彩	三重	三重高校
3	広岡 宙	大阪	上宮高校	3	大貫 彩	三重	三重高校

ジュニアシングルスU - 20 男子				ジュニアシングルスU - 20 女子			
1	船水 颯人	日本学連	早稲田大学	1	尾上 胡桃	日本学連	日本体育大学
2	星野 慎平	日本学連	早稲田大学	2	泉谷 朋香	兵庫	東芝姫路
3	丸山 海斗	大阪	上宮高校	3	小谷 菜津美	福島	ダンロップ
3	安藤 優作	日本学連	早稲田大学	3	中川 瑞貴	東京	ナガセケンコー

ジュニアダブルスU - 14 男子				ジュニアダブルスU - 14 女子			
1	矢野 颯人	和歌山	西和中学校	1	佐古 香織	愛知	加木屋中学校
	藤久 雄士	兵庫	荒井中学校		杉山 歌音	広島	広島修道大学附属鈴峯女子中学校
2	濱田 祐	和歌山	西和中学校	2	濱島 怜奈	島根	益田ジュニアS.T.C
	池口 季将	奈良	王寺中学校		野津 乙笑		松江ジュニアスクール
3	前田 真翔	和歌山	和歌山・橋本ジュニアクラブ L . C . C	3	徳永 栞波	岡山	倉敷ジュニア
	中西 泰誠				松岡 琴美	兵庫	生野ジュニアソフトテニスクラブ
3	清水 雅生	滋賀	蒲生町スポーツ少年団	3	浅見 今日子	広島	広島修道大学附属鈴峯女子中学校
	高岡 未来				藤原 麻央	岡山	就実中学校

ジュニアダブルスU - 17 男子				ジュニアダブルスU - 17 女子			
1	溝端 亮二	奈良	高田商業高校	1	宮下 真緒	東京	文化学園大学杉並高校
	金子 大祐				上田 理央		
2	田邊 雅人	三重	三重高校	2	貝瀬 ほのか	和歌山	和歌山信愛高校
	内田 理久				吉田 栞里	大阪	昇陽高校
3	北本 達己	奈良	高田商業高校	3	上野 小町	大阪	昇陽中学校
	西 泰右				吉田 滯奈		
3	上岡 俊介	大阪	上宮高校	3	竹田 真樹	兵庫	大津中学校
	広岡 宙				中野 舞		

平成27年度 ソフトテニスランキング

ジュニアダブルス U - 20 男子				ジュニアダブルス U - 20 女子			
1	船水 颯人 星野 慎平	日本学連	早稲田大学	1	笠井 佑樹 鈴木 梨沙	和歌山	和歌山信愛高校
2	内本 隆文 丸山 海斗	大阪	上宮高校	2	小谷 菜津美 下田 夢奈	福島 鹿児島	ダンロップ 城山観光ホテル
3	因 京将 米澤 要	石川	能登高校	3	那須 暁帆 尾上 胡桃	日本学連	東京女子体育大学 日本体育大学
3	長尾 景陽 杉山 奨悟	岡山	岡山理科大学附属高校	3	杉脇 麻侑子 上原 由佳	日本学連	早稲田大学

男子 シングルス				女子 シングルス			
1	船水 颯人	日本学連	早稲田大学	1	小林 奈央	日本学連	早稲田大学
2	船水 雄太	日本学連	早稲田大学	2	平久保 安純	日本学連	早稲田大学
3	村上 雄人	広島	NTT西日本広島	3	榎本 有花	広島	どんぐり北広島
3	長江 光一	広島	NTT西日本広島	3	中川 瑞貴	東京	ナガセケンコー
5	吉川 俊輔	日本学連	九州産業大	5	草野 絵美菜	日本学連	早稲田大学
5	坂口 亮太	愛知	東邦ガス	5	小林 美咲	広島	どんぐり北広島
5	名取 敬恩	日本学連	早稲田大学	5	横山 花純	愛知	アドマテックス
5	星野 慎平	日本学連	早稲田大学	5	小谷 菜津美	福島	ダンロップ

大学 男子				大学 女子			
1	安藤 優作 安藤 圭祐	日本学連	早稲田大学	1	杉脇 麻侑子 上原 由佳	日本学連	早稲田大学
2	丸中 大明 鈴木 琢巳	日本学連	中央大学	2	木村 理沙 平久保 安純	日本学連	早稲田大学
3	船水 雄太 九島 一馬	日本学連	早稲田大学	3	永井 里佳 小泉 友梨恵	日本学連	早稲田大学
3	船水 颯人 星野 慎平	日本学連	早稲田大学	3	河浪 佑 内山 文乃	日本学連	関西学院大学
5	村田 匠 中村 匡起	日本学連	日本体育大学	5	羽瀨 沙由里 高杉 梨奈	日本学連	東京女子体育大学
5	梶原 桂志 神川 浩大	日本学連	福岡大学	5	佐々木 美和 岡田 菜帆	日本学連	関西大学
5	玉置 大祐 小田桐 崇康	日本学連	中央大学	5	齊藤 香純 吉村 寛子	日本学連	明治大学
5	井原 陽平 林 大喜	日本学連	同志社大学	5	平山 結佳 北野 結花	日本学連	日本体育大学

平成27年度 ソフトテニスランキング

高 校 男 子				高 校 女 子			
1	内本 隆文 丸山 海斗	大阪	上 宮 高 校	1	笠井 佑樹 鈴木 梨沙	和歌山	和歌山信愛高校
2	困 京将 米 澤 要	石川	能 登 高 校	2	小 山 舞 黒田 麻衣	和歌山	和歌山信愛高校
3	中村 和樹 川嶋 雅也	福島	学 法 石 川 高 校	3	永尾 雪花 中崎 萌	大阪	昇 陽 高 校
3	溝端 亮二 金子 大祐	奈良	高 田 商 業 高 校	3	山根 雛乃 古屋 瑛里加	兵庫	須 磨 学 園 高 校
5	栗山 健志 白井 雅之	鹿児島	鹿 児 島 商 業 高 校	5	住本 侑香 高谷 美奈	大阪	四 天 王 寺 高 校
5	谷 口 睦 三輪 惇平	奈良	高 田 商 業 高 校	5	宮 蘭 未奈 平 田 葵	福岡	中村学園女子高校
5	山根 稔平 根本 大地	奈良	高 田 商 業 高 校	5	宮下 真緒 上田 理央	東京	文 大 杉 並 高 校
5	中平 慎吾 藤井 祥太	香川	尽 誠 学 園 高 校	5	山本 沙奈 山口 瑞希	和歌山	和歌山信愛高校
9	原口 峻一 川上 史弥	香川	尽 誠 学 園 高 校	9	徳重 月音 本田 ひな子	愛知	岡 崎 城 西 高 校
9	瀬口 翔太 橋 佳亮	福岡	大 牟 田 高 校	9	吉野 愛未 芝崎 百香	千葉	昭 和 学 院 高 校
9	齊藤 利貴 竹内 大地	千葉	昭 和 学 院 高 校	9	田中 麻綺 森崎 理南	熊本	八 代 東 高 校
9	齊藤 修也 徳川 開吏	富山	高 岡 商 業 高 校	9	黒木 夏穂 横田 真央	福岡	中村学園女子高校
9	森本 悦史 二階堂 和真	和歌山	和 歌 山 北 高 校	9	中村 彩乃 吉原 花海	東京	文 化 学 園 大 学 杉 並 高 校
9	本倉 健太郎 野口 航	岡山	岡 山 理 科 大 学 附 属 高 校	9	松永 花緒 土井 あんず	三重	三 重 高 校
9	高 宮 眞 山本 貴大	石川	能 登 高 校	9	栗原 桃香 増田 有里子	広島	広 島 翔 洋 高 校
9	堀口 勇氣 須藤 虎歌	三重	三 重 高 校	9	森山 之乃華 渡邊 遥奈	福岡	中村学園女子高校

平成27年度 ソフトテニスランキング

中 学 男 子				中 学 女 子			
1	北野 亮介 鈴木 竜弥	福島	西郷第一中学校	1	竹田 真樹 中野 舞	兵庫	大津中学校
2	水木 瑠 古山 祐也	青森	尾上中学校	2	山崎 綾乃 藤岡 佑衣	石川	中能登中学校
3	渡邊 光樹 本間 海斗	山形	中山中学校	3	浅倉 衣里 西東 彩菜	埼玉	戸塚中学校
3	根本 拓哉 檜山 遥斗	福島	西郷第一中学校	3	上野 小町 吉田 滯奈	大阪	昇陽中学校
5	中村 海斗 林 湧太郎	福岡	吉富中学校	5	蓮岡 若奈 根岸 楓英奈	大阪	昇陽中学校
5	中西 夏輝 田中 駿平	大阪	上宮中学校	5	鈴木 優美 富澤 采加	神奈川	鎌倉第二中学校
5	長 純平 小倉 輝	埼玉	芝中学校	5	木和田 真衣 花尻 風夏	和歌山	緑丘中学校
5	谷村 亮太 長島 奨	長崎	広田中学校	5	久保田 茜 小池 優奈帆	群馬	赤堀中学校

小 学 男 子				小 学 女 子			
1	武市 大輝 小松 隼士	山口	下松ジュニアクラブ	1	五十嵐 美結 比留間 あい	東京	高松小ジュニアクラブ 世田谷ジュニアクラブ
2	片岡 暁紀 広岡 大河	兵庫	和田山ジュニアクラブ 三田ジュニアクラブ	2	濱島 怜奈 野津 乙笑	島根	益田ジュニアS.T.C 松江ジュニアスクール
3	清水 雅生 高岡 未来	滋賀	蒲生町スポーツ少年団	3	岸浦 咲歩 岸浦 菜歩	兵庫	三田ジュニアクラブ
3	高橋 海斗 黒坂 卓矢	埼玉	わかくさ	3	荻島 美羽 松原 瑠	埼玉	わかくさ
5	加藤 大空翔 鬼塚 一成	栃木	BCファイターズ	5	高橋 偲 松橋 由依	岩手	南都田スポーツ少年団 北上ジュニアスポーツ少年団
5	前田 真翔 中西 泰誠	和歌山	和歌山・橋本ジュニアクラブ L . C . C	5	高野 みさき 高島 萌果	東京	日の出ジュニアクラブ 稲城ジュニアクラブ
5	笠嶋 怜 竹村 華瑠	青森	むつスポーツ少年団 平川市スポーツ少年団	5	丸目 萌 安藤 杏華	宮崎	清武ジュニアC
5	立野 佑樹 増田 裕介	千葉	もぐらクラブ	5	柴田 七海 市川 満璃華	京都	舞鶴ひまわりクラブ

国際大会入賞者

第15回世界選手権大会 (2015/インド・ニューデリー市)

1 国別対抗

団長：野際 照章

優勝

日本男子チーム

監督：斉藤 広宣 コーチ：中堀 成生 トレーナー：川上 晃司

選手：小栗元貴 高月拓磨 長江光一 増田健人 船水雄太 船水颯人

準優勝

日本女子チーム

監督：田中 弘 コーチ：高川 経生 トレーナー：吉川 友巳奈

選手：加瀬祐佳 脇田愛 森田奈緒 山下ひかる 小林奈央 平久保安純

2 男子ダブルス

第三位

小栗元貴・高月拓磨 増田健人・船水颯人

3 女子ダブルス

準優勝

森田奈緒・山下ひかる

第三位

加瀬祐佳・脇田愛

7. ソフトテニスの技術等級・指導員資格認定に関する事業

(1) 技術等級の認定を次のとおり行った。

(数値：名)

等級	名誉 指導員	Ma	Ex	S-Ex	Sp	S-Sp	1 級	2 級	3 級	4 級	計
平成 27 年度	0	0	79	19	360	24	328	1,179	1,507	3,316	6,812
平成 26 年度	1	0	78	19	399	13	295	1,195	1,532	3,183	6,715

(注) 平成 27 年度都道府県別認定者数は別表 2 (P52) に掲載

(数値：名)

年 度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
人 数	7,446	6,693	6,527	6,916	6,715	6,812

(2) 技術等級システムを活用して認定手続きを行い資格者管理の効率化を図り、大会申込システムと連動して大会参加資格のチェックを行った。

(3) 技術等級資格取得者を増大するため、大会実績による取得の見直しを図った。

8. ソフトテニスの審判員資格認定に関する事業

(1) 公認審判員の認定を次のとおり行った。

(数値：名)

		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
マスター レフェリー		75	60	71	41	58	60
マスター アンパイヤー		23	18	46	45	42	70
1 級		324	261	232	215	248	284
2 級	一 般	9,577	9,077	9,507	9,380	9,229	10,389
	高 校	17,557	17,574	19,665	18,628	20,256	21,331
ジュニア		31,643	31,318	39,746	36,545	39,657	39,321
計		59,199	57,308	66,267	64,854	69,490	71,455

(注) 平成 27 年度都道府県別認定者数は別表 3 (P53) に掲載

(2) 1 級審判員の検定会（参加者：99 名）と研修会（参加者：195 名）を、次のとおり実施した。

	実施期日	会 場	参加者(名)
検定会	平成 28 年 1 月 23 日～24 日	東京都・品川区立総合体育館	60
	平成 28 年 2 月 20 日～21 日	三重県・三重交通 G スポーツの杜 体育館	39
研修会	平成 27 年 12 月 13 日	新潟県・リージョンラサ上越イントースタジアム	15
	平成 28 年 1 月 9 日	鹿児島県・鹿児島ふれあいスポーツランド	18
	平成 28 年 1 月 16 日	茨城県・鉾田市総合公園体育館	42

	平成 28 年 1 月 24 日	香川県・善通寺市民体育館	9
	平成 28 年 2 月 30 日	岐阜県・瑞浪市民公園体育館	21
	平成 28 年 2 月 7 日	山口県・周南市学び・交流プラザ	21
	平成 28 年 2 月 21 日	大阪府・大阪市立千島体育館	27
	平成 28 年 3 月 6 日	山形県・山形県総合運動公園	42

(3) ソフトテニスハンドブック、ジュニア審判マニュアル等を販売ならびに配布した。

(数値：冊数)

年 度	ソフトテニス ハンドブック	採点票	オーダー票	イエロー カード等	ジュニア審判 マニュアル
平成 27 年度	24,802	3,618	1,241	24,812	43,155
平成 26 年度	22,297	2,970	982	22,473	38,860

(4) 派遣審判員の実施

- ・第 8 回アジア選手権大会日本代表選手予選会に審判員を派遣し、審判技術を向上させた。

(5) 審判技術 DVD の活用

- ・日本連盟で作成した DVD を審判技術向上のために積極的に活用した。

(6) 審判認定システムを活用して認定手続きと資格者チェックを行い、大会申込システムとの連動を図った。

9. ソフトテニス用具・用品、施設の公認

(1) 愛好者・競技者が安全で快適にプレーができるよう用具・用品、施設の公認に関し、次の事業を行った。

①以下公認を行った。

株式会社ニューバランスジャパン ユニフォーム（新規）

株式会社ディアドラジャパン シューズ

②更新手続きを承認した。

(P44～45 (3)維持会費ア.公認メーカー イ.施設業者を参照)

③ラケットの証紙、ネットの証布を発行した。

(数値：枚)

年 度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
ラケット証紙	434,124	411,988	431,977	460,146	396,825	429,345
ネット証布	2,500	1,124	3,100	3,400	2,800	2,650

II. ソフトテニスの競技力向上事業

1. ソフトテニスの競技力向上、医科学研究調査

(1) 競技力向上

*世界No.1の競技力の維持を目指して次の事業を実施した。

1) 競技者育成プログラムの推進

・一貫指導システムの構築を図り、競技者育成プログラムを Step1 から Step5 の過程を経て実施することにより、競技力を向上させた。①、②はスポーツ振興くじ助成金の対象事業、③はスポーツ拠点化助成事業として実施。

①Step-1,2 47都道府県で強化を実施した。

〈各支部に対して、400,000円を助成した。〉

②Step-3 (U-14・U-17・U-20/男・女) が 8 ブロックで下記のとおり強化練習会兼選考会を実施した。

ブロック名	期 日	参加 選手数	各支部 代表	カテゴリ-別 指導者	ブロック 運営委員	データ 管 理	日本連盟 運営委員	日本連盟 強化委員	総 計
北海道・東北(宮城県・仙台市)	9/4～9/6	168	7	28	4	4	1	1	213
関 東 (埼玉県・白子町)	8/28～30	186	8	32	4	4	1	1	236
北信越 (石川県・小松市)	8/28～30	120	5	20	4	4	1	1	155
東 海 (三重県・四日市市)	8/28～30	95	4	13	4	4	1	1	122
近 畿 (奈良県・明日香村)	8/28～30	142	6	23	4	4	1	1	181
中 国 (広島県・三次市)	8/28～30	117	5	20	4	4	1	1	152
四 国 (徳島県・徳島市)	8/28～30	95	4	16	4	4	1	1	125
九 州 (熊本県・熊本市)	8/28～30	187	8	32	4	4	1	1	237
合 計		1,110	47	184	32	32	8	8	1,421

※スポーツ振興くじ助成金の対象事業として 49,210,000 円の助成を受けた。

③第 10 回ソフトテニスジュニアジャパンカップ「競技者育成プログラム (Step-4)」を下記のとおり実施した。

期 日：11月13日・16日 (強化練習会兼選考会)

11月14日～15日 (第10回ジュニアジャパンカップ)

会 場：宮崎市生目の杜運動公園テニスコート

選 手：U-14 (男子：40名・女子：42名) 計 82名

U-17 (男子：44名・女子：46名) 計 90名

U-20 (男子：32名・女子：38名) 計 70名

指 導 者：24名 (各カテゴリーの男女別に4名)

運営委員：33名

競技委員：70名

・ Step-5 全日本 U-14,U-17,U-20 として強化合宿を実施した。

- ・一貫指導システム確立のための指導理念、指導法ならびに指導内容の検討
- ・競技者育成プログラムを推進するために指導マニュアルを活用して推進した。
- ・平成 26 年度に作成した指導教本の更なる活用を図った。

2) 日本代表チーム、ナショナルチーム及びアンダーチームの強化合宿

①日本代表チームおよびナショナルチーム（男子、女子）の強化合宿を次のとおり実施した。

	回数	実施期日	参加者(名)		会 場	
			スタッフ	選手		
代表 (男女合同)	☆①	平成 27 年 4 月 24 日～29 日	6	12	大阪府・大阪市	
	☆②	平成 27 年 6 月 5 日～10 日	6	16	兵庫県・三木市	
	☆③	平成 27 年 7 月 2 日～7 日	6	15	宮崎県・宮崎市	
	☆④	平成 27 年 9 月 17 日～22 日	6	12	大阪府・大阪市	
	☆⑤	平成 27 年 11 月 13 日～15 日	6	12	千葉県・成田市	
ナショナル	男子	☆①	平成 27 年 4 月 24 日～29 日	3	12	大阪府・大阪市
		2	平成 27 年 9 月 11 日～13 日	3	9	宮城県・仙台市
		③	平成 28 年 3 月 17 日～22 日	3	23	宮崎県・宮崎市
	女子	☆①	平成 27 年 4 月 24 日～29 日	3	10	大阪府・大阪市
		☆2	平成 27 年 6 月 30 日～7 月 5 日	3	10	広島県・広島市
		3	平成 27 年 10 月 2 日～7 日	3	11	滋賀県・長浜市
		④	平成 28 年 3 月 17 日～22 日	3	20	宮崎県・宮崎市

②全日本 U-14. U-17. U-20（男子、女子）強化合宿を次のとおり実施した。

	カテゴリー	実施期日	参加者(名)		会 場	
			スタッフ	選手		
男子	U-20	1	平成 27 年 9 月 11 日～13 日	3	9	宮城県・仙台市
		2	平成 28 年 2 月 16 日～21 日	3	9	三重県・四日市市
	U-17	☆①	平成 27 年 4 月 11 日～16 日	3	20	三重県・鈴鹿市
		② (日韓中 ジュニア代表 チーム)	平成 27 年 8 月 20 日～22 日	2	6	三重県・鈴鹿市
		3	平成 28 年 2 月 16 日～21 日	3	20	三重県・四日市市
	U-14	☆①	平成 27 年 5 月 23 日～28 日	3	21	三重県・鈴鹿市
2		平成 28 年 2 月 16 日～21 日	3	20	三重県・四日市市	
女子	U-20	☆1	平成 27 年 6 月 30 日～7 月 5 日	3	9	広島県・広島市
		2	平成 28 年 1 月 30 日～2 月 4 日	3	10	三重県・四日市市
	U-17	☆①	平成 27 年 4 月 11 日～16 日	2	20	三重県・鈴鹿市
		② (日韓中 ジュニア代表 チーム)	平成 27 年 8 月 20 日～22 日	3	6	三重県・鈴鹿市

		3	平成 28 年 1 月 30 日～2 月 4 日	3	19	三重県・四日市市
	U-14	☆①	平成 27 年 5 月 23 日～28 日	3	21	三重県・鈴鹿市
		2	平成 28 年 1 月 30 日～2 月 4 日	3	20	三重県・四日市市

(注 1) ☆印は (公財) 日本オリンピック委員会の補助事業である。(12,930,000 円)

(注 2) ○印の合宿は男女合同で実施した。

3) 競技力向上のための海外遠征

- ・次の国際大会へ選手を派遣し、競技力の向上を図った。

* 第 14 回チャイナカップ

中国・湖北省において、6 月 18 日 (木)～6 月 25 日 (木) まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。この大会派遣は (公財) 日本オリンピック委員会の補助事業である。(補助金額は強化合宿事業に含めて記載)

ア. 選手団

団長兼女子監督 安達和紀 (全日本アンダー14 女子チーム監督)

男子監督 高川経生 (全日本代表女子チームコーチ)

トレーナー 吉川友巳奈 (全日本代表女子チームトレーナー)

男子選手 井口雄介 (スマッシュイグチクラブ) 塩田顯 (日本体育大学)

村田匠 (日本体育大学) 岡本光生 (日本体育大学)

宮田裕章 (太平洋工業) 立木雅也 (明治大学)

女子選手 中川瑞貴 (ナガセケンコー) 阿部悠梨 (ナガセケンコー)

柿崎あやの (ヨネックス) 神谷絵梨奈 (ヨネックス)

小谷菜津美 (ダンロップ) 米山芽玖 (ダンロップ)

イ. 参加国 日本、中国、韓国 (男子のみ)、中華台北、北朝鮮、インド

ウ. 成績 国別対抗戦 男子：優勝 女子：優勝

男子シングルス 優勝：岡本光生

準優勝：村田匠

女子シングルス 優勝：小谷菜津美

第三位：阿部悠梨

男子ダブルス 準優勝：塩田顯・井口雄介

女子ダブルス 優勝：中川瑞貴・阿部悠梨

準優勝：柿崎あやの・神谷絵梨奈

第三位：小谷菜津美・米山芽玖

ミックスダブルス 優勝：中川瑞貴・井口雄介

準優勝：塩田顯・阿部悠梨

第三位：村田匠・神谷絵梨奈

* 第 1 回モンゴルオープン国際大会

モンゴルにおいて 8 月 15 日 (土)～17 日 (月) まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

団 長	小原信幸（日本連盟副会長）	
男子監督	中津川澄男（ナショナルチーム男子監督）	
女子監督	大槻三喜（ダンロップ監督）	
男子選手	船水雄太（早稲田大学）	九島一馬（早稲田大学）
	丸中大明（中央大学）	鈴木琢巳（中央大学）
女子選手	原野亜衣（ダンロップ）	小谷菜津美（ダンロップ）
	米山芽玖（ダンロップ）	大槻麗（ダンロップ）
イ. 参加国	日本、モンゴル、韓国、ロシア、北朝鮮	
ウ. 成 績	男子ダブルス	優勝 丸中大明・鈴木琢巳 第三位 船水雄太・九島一馬
	女子ダブルス	優勝 小谷菜津美・大槻麗 第二位 原野亜衣・米山芽玖
	男子シングルス	優勝 船水雄太 第二位 九島一馬 第三位 鈴木琢巳
	女子シングルス	優勝 原野亜衣 第二位 大槻麗 第三位 小谷菜津美

*第22回日・韓・中ジュニア交流競技会（ソフトテニス）

韓国・済州島において、8月23日（日）～8月29日（土）まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

総監督	小原信幸（日本連盟副会長）	
男子監督	池田征弘（全日本アンダー17男子チーム監督）	
女子監督	高井志保（全日本アンダー17女子チーム監督）	
トレーナー	橋本貴子（全日本アンダー17女子チームトレーナー）	
男子選手	田邊雅人（三重高校）	内田理久（三重高校）
	原口峻一（尽誠学園高校）	金子大祐（高田商業高校）
	上岡俊介（上宮高校）	溝端亮二（高田商業高校）
女子選手	小山舞（和歌山信愛高校）	吉田栞里（昇陽高校）
	貝瀬ほのか（和歌山信愛高校）	中別府瑞希（三重高校）
	清水彩（三重高校）	久保晴華（三重高校）

イ. 参加チーム 日本、韓国、中国、済州島

ウ. 成 績 男子：優勝 女子：優勝

*コリアカップ

韓国・仁川市において9月1日（火）～4日（金）まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

団 長	野際照章（日本連盟理事）	
トレーナー	吉川友巳奈（日本代表女子チームトレーナー）	
男子選手	塩田 顕（日本体育大学）	安藤優作（早稲田大学）
	安藤圭祐（早稲田大学）	星野慎平（早稲田大学）
女子選手	脇田愛（稲門クラブ）	加瀬祐佳（早稲田大学）
	尾上胡桃（日本体育大学）	西岡真里華（関西大学）
イ. 参加国	日本、韓国、中国、タイ、インド、ネパール、ラオス、フィリピン、モンゴル、ベトナム	
ウ. 成 績	男子ダブルス	第二位 安藤優作・安藤圭祐 第三位 塩田 顕・星野慎平
	女子ダブルス	優 勝 加瀬祐佳・脇田愛 第二位 西岡真里華・尾上胡桃
	男子シングルス	第二位 塩田 顕 第二位 安藤圭祐 第三位 安藤優作
	女子シングルス	第二位 加瀬祐佳 第二位 尾上胡桃 第三位 脇田愛

*第15回世界ソフトテニス選手権大会

インド・ニューデリーにおいて11月16日（月）～22日（日）まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

団 長	野際照章（日本連盟理事）	
男子監督	斉藤広宣（日本代表男子チーム監督）	
男子コーチ	中堀成生（日本代表男子チームコーチ）	
男子トレーナー	川上晃司（日本代表男子チームトレーナー）	
女子監督	田中 弘（日本代表女子チーム監督）	
女子コーチ	高川経生（日本代表女子チームコーチ）	
女子トレーナー	吉川友巳奈（日本代表女子チームトレーナー）	
役 員	工藤敏巳（医科学部会委員）	山本裕二（医科学部会委員）
男子選手	小栗元貴（東邦ガス）	高月拓磨（ヨネックス）
	長江光一（NTT西日本広島）	増田健人（和歌山県庁）
	船水雄太（早稲田大学）	船水颯人（早稲田大学）
女子選手	加瀬祐佳（早稲田大学）	脇田愛（稲門クラブ）
	森田奈緒（ヨネックス）	山下ひかる（ヨネックス）
	小林奈央（早稲田大学）	平久保安純（早稲田大学）
イ. 参加国	日本、中国、インドネシア、韓国、中華台北、タイ、ラオス、インド、モンゴル、フィリピン、ネパール、マレーシア、カンボジア、カザフスタン、パキスタン、	

アメリカ、カナダ、ブラジル、ポーランド、チェコ、ロシア、ハンガリー、ドイツ、英国

ウ. 成績

男子国別対抗	優勝
女子国別対抗	準優勝
男子ダブルス	第三位 小栗元貴・高月拓磨
	第三位 増田健人・船水颯人
女子ダブルス	第二位 森田奈緒・山下ひかる
	第三位 加瀬祐佳・脇田愛

4) 強化スタッフの各種大会視察

- ・強化スタッフ・強化委員を次のとおり各種大会に派遣した。

大会名	派遣者
アジア選手権大会日本代表予選会	斉藤広宣 中堀成生 田中弘 高川経生 小野寺剛 中津川澄男 小峯秋二 高井志保
全日本シングルス選手権大会	斉藤広宣 中堀成生 田中弘 高川経生 小峯秋二
ハイスクールジャパンカップ	高橋茂 柴田真弓
全日本学生選手権大会	浅川陽介
全日本小学生選手権大会	橋本康徳 松元誠二
全国中学校大会	松元誠二
全日本選手権大会	斉藤広宣 中堀成生 田中弘 高川経生 小野寺剛 小峯秋二 浅川陽介 伊加英隆 高井志保 安達和紀
世界選手権大会日本代表予選会	斉藤広宣 田中弘 高川経生 中津川澄男 小峯秋二 高井志保
全日本高等学校選抜大会	池田征弘
都道府県対抗全日本中学生大会	安達和紀 海江田佐奈美

(2) 医科学研究調査

- ①医科学スタッフによるサポート及びトレーナーズテントの設営を実施した。

- ・シングルの強化対策を実施した。
- ・陣形に応じた対応策を研究した。
- ・国内大会での撮影及び映像分析を行い、強化合宿において指導した。
- ・国内大会でトレーナーズテントを設営した。
- ・強化合宿時にメディカルチェックを実施し、選手の健康管理と指導を行った。
- ・強化選手へのメンタルトレーニングを行った。
- ・栄養調査を実施し、その分析結果をもとに指導した。
- ・国際大会派遣に帯同し、情報収集・分析・フィードバックを行った。

- ②各種フィットネステストデータを分析し、競技力向上に役立てた。

- ③医科学研究報告書を作成・発行し、指導現場に役立てた。

- ④JISSにおけるTSC事業での検査・測定
- ⑤選手教育資料としてのコンディショニングバイブルの改訂
- ⑥公認コーチ養成講習会における講師協力

(3) アンチ・ドーピング

①アンチ・ドーピングに関する教育・啓発活動

- ・(公財)日本アンチ・ドーピング機構と連携して、ホームページや大会要項等への情報掲載や強化合宿での指導等、ドーピング防止の普及啓発活動を実施して、スポーツの公平性を競技者に理解させ健全な精神の育成を図った。
- ・STEP-4会場においてアウトリーチプログラムを実施し、アンダー世代の選手への教育・啓発活動を図った。

②国内大会におけるドーピング検査の実施

- ・アジア選手権大会日本代表選手予選会、全日本シングルス選手権大会、全日本選手権大会、全日本インドア選手権大会で実施し、日本スポーツ振興センターより5,009,000円の助成を受けた。

③国際連盟およびアジア連盟と連携してのアンチ・ドーピング活動の推進

- ・平成28年3月に広島市で開催されたアジアカップひろしま国際ソフトテニス大会にて国際ソフトテニス連盟が実施した競技内ドーピング検査に協力した。

2. ソフトテニスの指導者育成

(1) 指導者養成

①指導者養成事業の推進

- ・指導者養成講習会を次のとおり実施した。
 - ア. 指導員養成講習会専門科目開催事業8会場
実施都道府県
(北海道、石川県、栃木県、愛媛県、愛知県、兵庫県、福岡県、熊本県)
 - イ. スポーツ専門学校1会場
(履正社医療スポーツ専門学校)
 - ウ. コーチ養成講習会専門科目開催事業1会場
(実施場所：埼玉県上尾市 スポーツ総合センター)
- ・指導者養成講習会(各都道府県連盟)を「公認スポーツ指導者養成マニュアル」を活用して積極的に実施し、公認スポーツ指導者の拡大を図り、地域の普及活動を充実させた。
- ・公認スポーツ指導者の活用方法の検討を行った。
- ・中・高等学校指導者育成のための方策を検討した。
- ・平成26年度に作成した指導教本「最新版ソフトテニス指導教本」の更なる活用を図った。
- ・シングルス練習用マニュアル(DVD版)の活用を図った。

②全国小学生・中学生・高校生の指導者の合同研修会を実施した。

- ・日程：平成28年2月13日(土)・14日(日)
- ・場所：大阪アカデミア
- ・参加人数：役員 25名、指導者 137名、合計 162名

・研修内容

- ア. 小学生、中学生、高校生へのソフトテニス活動における課題の改善について検討した。
- イ. 競技者育成プログラムの現状を把握し、さらなる推進に向けて協議を行った。
- ウ. ソフトテニスマナーBOOK が完成し、その内容の紹介を行うとともにマナーの向上および、スポーツ活動を通して環境保全ならびに青少年の健全育成について協議を行った。
- エ. 代表者選考基準、愛好者増加対策についての現状把握と今後の進め方についての議論を行った。スポーツ界における暴力の根絶について指導者としてあるべき姿について議論した。
- オ. (公財)スポーツ仲裁機構により「スポーツ仲裁・調停の仕組みと紛争解決事例」「トラブルの無いスポーツ環境、公平・公正な解決制度および争いを未然に防止する重要性」等についての講演をしていただき、指導者として今度の指導にあたって留意すべき点について確認した。

※スポーツ振興基金助成金の対象事業として、1,138,000 円の助成を受けた。

③指導者バンク（日本連盟）の活用推進

競技者育成プログラム及び指導者養成推進等のため日本連盟として指導者バンクを活用した。

・日本連盟指導者バンク登録指導者の活用

Step-5 におけるナショナルチームや全日本アンダーチームの監督、コーチとして活用。

Step-4 における各カテゴリーの指導者として活用。

Step-3 における支部代表指導者または日本連盟指導者として活用。

④指導者バンク（地域）の活用推進

- ・積極的に指導者バンク（地域）を活用して、競技者育成プログラム（Step1, 2）の推進及び中学、高校の指導者不足を解消する等、普及を担う指導者の確保に努力した。
- ・ジュニア層指導者の資格取得を促進した。（指導員・審判・技術等級）

Ⅲ. ソフトテニスの国際振興事業

1. ソフトテニスの国際振興

(1) 国際普及活動の推進

① 国際組織（ISTF, ASTF）内での指導的立場に基づく国際性の向上を図った。

*ソチ（ロシア）で開催されたスポーツアコードの総会に4月17日から4月22日まで笠井専務理事（IF,AF 事務総長）、丹崎健一国際委員長が参加をし、総会前に開催された各種研修会等を通じてソフトテニスのアピールと他競技団体役員との交流を図った。

*バンコク（タイ）で8月11日から8月13日まで開催された AIMS（非オリンピック競技23団体）の臨時総会に笠井専務、丹崎国際委員長が参加し、ソフトテニスのプレゼンテーションを行い、他競技団体役員との交流を図った。

- ② JOC 国際ミーティングに参加し、外務省や文部省の NF への協力体制、協力内容の情報を入手し、今後海外展開の資金支援取得の可能性について検討して行くこととした。
- ③ 用具の提供、流通の促進を図った。

* 用具・用品の支援

・ボール＝ 165 打、ラケット＝280 本、ガット＝310 張

《送付先》インド世界選手権大会、コリアカップ、ワタキューカップ大会時に普及国に対しラケット・ボールを支援した。

- ④ 普及指導用諸教材の活用を行い、国際振興に役立てた。
 - ・ジュニア用教材の英語版の作成を行った。(平成 28 年度に製本予定)
 - ・紹介用プレゼンテーション DVD、紹介用パンフレットを活用した。
 - ・技術指導 DVD (基礎技術、応用技術、練習方法、競技、審判各編)、解説書等を活用した。
 - ・諸規定集 (ルールブック、審判 DVD 等) を活用した。
- ⑤ 国際普及親善活動に結びつく支部等の活動に対して、「国際親善大会補助」として助成した。北海道連、福井県連、静岡県連、広島県連、山口県連、香川県連、福岡県連、日本学連

(2) 国際指導体制、審判体制の充実

- ① 国際指導員制度 (ASTF) と国際審判員制度 (ASTF) を推進した。
- ② インドでの世界選手権大会時に、アジア各国から国際審判員 14 名を派遣し、また中国からの派遣審判員を国際審判員として認定した。

(3) 国際大会の開催促進

* 国際競技大会の参加種目への招致活動及び大会運営を支援した。

- ① 第 15 回世界選手権大会 (2015 年インド、ニューデリー) の運営を支援した。
 - ・2015 年 7 月 28 日から 30 日まで笠井達夫専務理事、丹崎健一国際委員長が中華台北を訪問し、韓国連盟、中華台北連盟、日本連盟の間でインド世界選手権での支援金の打合せ、ISTF の今後の進め方、規約改定等について話し合いを実施した。
 - ・2015 年 9 月 11 日から 9 月 15 日、京都で開催されたワタキューカップへ笠井達夫専務理事と丹崎健一国際委員長が訪問し、インドでの世界選手権大会開催と、マレーシアやポーランドと今後の国際大会などの打合せを行った。また ISTF 朴会長とも今後の ISTF の運営について打合せを行った。
- ② 2018 年第 18 回アジア競技大会正式種目となるよう、インドネシアオリンピック委員会、体育協会の要人を訪問し、ロビー活動を行った。
- ③ 2018 年の第 18 回アジア競技大会がインドネシアで開催される事が決まったことにより、2016 年の第 8 回アジア選手権大会はそのリハーサル大会とするとの位置づけでインドネシアで開催すべく、2015 年 8 月 2 日～4 日ジャカルタにて、インドネシア連盟とアジア競技大会、アジア選手権 (2016 年) の会場の視察および打合せを行った。
- ④ 2016 年 1 月に、アジア選手権大会の予定していたテニスコートを含む競技施設が、アジア競技大会のための改修工事に 2016 年から入るとの事で、2016 年に開催の第 8 回アジア選手権大会についてはインドネシアでは開催できなくなったと、インドネシア連盟より開催辞退の連絡が入った。至急代替開催地の模索、検討を行い、アジアソフトテニス連盟の会長国で

ある日本で開催せざるを得ないと判断し、日本の千葉市を候補地と決定した。(期間：2016年11月16日～11月20日)

- ⑤ 2016年2月22日～24日に笠井専務理事、丹崎国際委員長が韓国に出張し、ユン会長とアジア選手権開催地について協議し、千葉市開催の合意を得た。
- ⑥ 続いて2016年3月11日～13日のアジアカップ広島大会時に来日の中華台北代表とアジア選手権開催地について話し合い、3月15日付にて中華台北趙会長より千葉市開催の合意を受け、最終的に千葉市開催を決定して加盟国への案内を送付し、開催に向けての準備がスタートした。

(4) 国際組織 (ISTF、ASTF) への活動

- ① ソフトテニス指導国である日本、韓国、中華台北の3国で、各国の協力体制、財政基盤の確立、規定の改正や組織運営について検討し、腹案を策定したが、総会での検討、決議には至らなかった。
- ② インドでの世界選手権成功に向け、財政支援策を検討、上記指導3国からの協力を得て実現し、成功に導いた。
- ③ 2015年10月5日～7日、10月28日～30日の2回、韓国を訪問し、中華台北と3国会議を実施し、さらに国際振興を図るためにISTFの組織強化等についてISTFの総会に向けて検討を行った。
- ④ ISTF会長の朴氏に対しISTF改革に向け、2015年11月にインドで開催の第16回国際ソフトテニス連盟総会にて規約改正等の提案を行ったが、現在のところ認可されず新ISTF人事も白紙の状態である。

(5) アンチ・ドーピング活動

- ① 国際連盟およびアジア連盟と連携してのアンチ・ドーピング活動の推進
 - ・インドのニューデリーで開催された第15回世界ソフトテニス選手権大会の時に、インドアンチ・ドーピング機構及び韓国のキムISTFドーピング委員と協力し、10検体の競技内検査を実施した。
 - ・2016年3月のアジアカップひろしま大会時に、ISTFとして10検体の競技内検査を実施した。

[各事業を推進するための組織と財政の強化]

I. 組織と財政の強化

1. 組織と財政の強化の推進

公益財団法人としての高い社会的信用を維持し公益目的事業を行うために、組織体制の強化と財政運営に取り組んだ。

2. 環境と教育への取組み

ソフトテニスを通じて環境と教育に取り組んだ。ソフトテニスを通じて環境保全を図っていくとと

もに、自己責任及びフェアプレイの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図った。

- ① 大会や強化事業を実施する際にごみの分別等を行うなど、スポーツ活動を通して環境保全を図り、スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進するため、物を大切に作る生活習慣を徹底した。

平成26年度に当連盟が独自に新規作成した「環境宣言『来た時よりも美しく』・フェアプレイ宣言『ありがとう あなたの笑顔とそのマナー』」の横断幕とポスター・プログラム等の掲出と配布を実施し、環境とマナーの向上を図った。

- ・大会会場でのごみの持ち帰り及び分別推進とマイボトルの推進を図った。
- ・スポーツと環境保全シンポジウム等の会議に積極的に参加した。

- ② スポーツマンとしての倫理教育、青少年の健全育成の推進

- ・スポーツ活動を通して青少年の自己責任やフェアプレイの精神などを身につけると共に、仲間との交流を通じて、コミュニケーション能力の育成や他人に対する思いやりなど、豊かな人間性を育てる青少年の健全育成に取り組むと共にソフトテニスに誰にでも誇れる格調高い競技を目指した。
- ・試合終了後の握手の励行を行った。
- ・「フェアプレイで日本を元気に」フェアプレイ宣言キャンペーン活動を継続推進した。
- ・マナーキッズプロジェクト（NPO）と連動し、ショートテニスを通じて日本の伝統的な礼法を体験させ、＜体・徳・知＞バランスのよい子供を育てる活動を推進した。
- ・ソフトテニスマナーBOOKを作成し、すべてのソフトテニス関係者のマナー向上を推進するため全団体並びに加盟支部に配布した。
- ・全国指導者研修会（小中高の指導者3名が各都道府県から参加して28年2月に実施）において「代表選手選考基準、愛好者増加対策、競技者育成プログラム、フェアプレイとマナー」等をテーマに研修会を実施した。また、（公財）スポーツ仲裁機構による「スポーツ仲裁・調停の仕組みと紛争解決事例」「トラブルの無いスポーツ環境、公平・公正な解決制度および争いを未然に防止する重要性」等についての講演をいただいた。

3. 会員登録制度の推進

平成11年度に制定した会員登録制度も16年を経過した。IT化により実務の効率化と迅速化を図り、平成17年度から小・中学生も有料化、平成20年度からは会員登録料納付システムの導入を図ることにより本制度は定着した。そして、各支部を中心とした多くの関係者のご努力とご協力により順調に会員登録が増加して、財政基盤も強固なものとなってきている。

- ① 会員登録制度の定着および充実

- ・制度の周知徹底を図り会員登録を定着させ、さらに推進した。

- ② 会員登録手続きの効率化

- ・会員登録システムの活用を向上し、事務効率化を図った。
- ・会員登録システム担当者引継袋の利用を徹底し、登録責任者の交替の際の登録事務引継の徹底と円滑化を図った。
- ・会員登録システムに連動し、審判、技術等級の認定管理を行った。
- ・平成24年度より会員登録システムに連動して実施した、日本連盟主催大会申し込み

の IT 化に加え、支部大会申込システムを完成させ、平成 27 年度から活用を開始した。

- ・会員証及び会員報配布の各団体への直接送付を継続し、支部関係者の事務負担の軽減を図った。
- ・会員登録料納付システムの活用による会費および大会参加料等の早期かつ正確な納付による円滑な資金管理を推進した。

③ 会員報の発行

- ・年 2 回(9 月、2 月)会員報を発行して会員登録料の使途及び日本連盟の情報を会員に周知した。

④ 登録状況の把握と改善

- ・支部別及び階層別の団体数と会員数等を把握した。
- ・会員登録有料化からの階層別会員登録推移の検証・分析を実施した。

4. 暴力行為の根絶

- ・「公益財団法人日本体育協会及び加盟団体における倫理に関するガイドライン」に従い、「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」の精神に則り暴力の根絶の徹底を図っている。
- ・暴力行為の根絶のため、平成 25 年 12 月 1 日に制定した指導基本規程に基づき、通報窓口と指導基本規程違反の処理機関として、違反救済申立処理委員会を各支部（各都道府県連盟、日本学連、全国高体連、日本中体連）に、違反 救済審査委員会を日本連盟に平成 26 年 4 月 1 日より設置し、指導基本規程等諸規程に従った対応を図った。

5. 2020 年東京オリンピックに向けてソフトテニスを広くアピールするための広報活動

2020 年東京オリンピックに向けてソフトテニスを広くアピールするための広報活動として、指導教本（DVD BOOK）、映画、漫画の制作を行い、指導教本、漫画は、全国約 1,500 の書店で販売され、映画「案山子とラケット」は平成 27 年 4 月 4 日から全国の映画館で一般公開された。併せ東京オリンピックを見据え、ソフトテニスの国際普及・振興を図るため、長期的展望に立った長期計画を策定し、2020 年を良い機会として捉え、世界ジュニア選手権大会、世界選手権大会、関西ワールドマスターズと、ジュニアからシニアまでを対象にした 3 大大会を開催し、真に競技スポーツと生涯スポーツを併せ持つソフトテニスの祭典の日本での実現を目指すべく準備を開始した。

6. 長期基本計画 2012 の推進

平成 27 年度を長期基本計画 2012(平成 24 年度～28 年度)の 4 年目の年として、長期基本計画 2012 に基づく課題について進捗状況を把握し、着実に推進した。

〔庶務事項〕

1. 評議員会に関する事項

(1) 定時評議員会

- ア. 期 日 平成 27 年 6 月 14 日 (日) 正午 開会
- イ. 会 場 アワーズイン阪急 ツイン館 4 階「第 1・第 2」会議室
- ウ. 決議事項
 - ①平成 26 年度事業報告書 (案) および決算報告書 (案) について
 - ②評議員の選任について

(2) 臨時評議員会

- ア. 期 日 平成 27 年 12 月 6 日 (日) 午前 9 時 30 分 開会
- イ. 会 場 アワーズイン阪急 ツイン館 4 階「第 1・第 2」会議室
- ウ. 決議事項
 - ①平成 27 年度第 1 次補正予算書 (案) について
 - ②大会要項の改訂について
 - ③平成 28 年度事業計画書 (案) について
 - ④平成 28 年度収支予算書 (案) について
 - ⑤平成 28 年度評議員会日程について
- エ. 支部提案
 - ①国民体育大会の抽選方法について
 - ②国民体育大会の監督の変更について

2. 理事会に関する事項

(1) 第 1 回理事会

- ア. 期 日 平成 27 年 5 月 23 日 (土) 正午 開会
- イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室
- ウ. 議決事項
 - ①平成 26 年度事業報告書 (案) および決算報告書 (案) について
 - ②表彰規程の改訂について
 - ③謝金支給規程の改訂について
 - ④補助金交付規則の制定
 - ⑤用具・用品の公認申請について

(2) 第 2 回理事会

- ア. 期 日 平成 27 年 6 月 13 日 (土) 正午 開会
- イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室
- ウ. 議決事項
 - ①事務処理規程 (案) について
 - ②平成 27 年度定時評議員会提案事項の確認について
 - ・平成 26 年度事業報告書 (案) および決算報告書 (案) について
 - ・評議員の選任について
 - ③世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会、関西ワールドマスターズゲームズの日本

開催について

④事務局体制について

⑤用具・用品の公認申請について

(3) 第3回理事会

ア. 期 日 平成27年11月3日(火・祝) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

①平成27年度第1次補正予算(案)について

②平成28年度事業計画書(案)について

③平成28年度収支予算書(案)について

④用具・用品の公認申請について

エ. 審議事項

①平成27年度表彰者および第65回日本スポーツ賞について

②平成28年度理事会および評議員会日程(案)について

(4) 第4回理事会

ア. 期 日 平成27年12月5日(土) 12時 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

①用具・用品の公認申請について

②平成28年強化チーム(案)について

③第61回全日本インドア出場選手について

④規程改訂について

・顧問・参与選出規程、競技者規程、ナショナルチーム編成基準の改訂

・国内におけるドーピング検査に関する規程、ユニフォーム制作上の指導基準の廃止

⑤平成27年度臨時評議員会提案事項について

エ. 審議事項

①平成28年度理事会日程(案)について

②日本リーグおよび入替戦について

③支部提案について

(5) 第5回理事会

ア. 期 日 平成27年12月23日(水・祝) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

①個人情報保護方針の改訂、個人情報管理規程の制定および事務職員就業規則の改訂について

②事務局体制について

(6) 第6回理事会

ア. 期 日 平成28年1月31日(日) 正午 開会

イ. 会 場 公益財団法人日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ①第8回アジア選手権大会について
- ②全日本アンダー14女子チームコーチの交代について
- ③普及振興・強化拠点施設検討プロジェクトについて
- ④規程の制定および改訂について
 - ・文書管理規程の改訂
 - ・特定費用準備資金等取扱規程の制定
- ⑤用具・用品の公認申請について

3. 業務執行理事会議に関する事項

(1) 第1回業務執行理事会議

- ア. 期 日 平成27年5月22日(金) 14時 開会
- イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室
- ウ. 議 題

- ①業務執行状況報告及び事業計画について
- ②平成27年度第1回理事会、定時評議員会での審議事項について
- ③規程の改訂について
- ④事務局体制等

(2) 第2回業務執行理事会議

- ア. 期 日 平成27年6月12日(金) 14時 開会
- イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室
- ウ. 議 題

- ①業務執行状況報告及び事業計画について
- ②事務処理規程について
- ③平成27年度定時評議員会提案事項の確認について
- ④世界選手権大会、世界ジュニア選手権大会、ワールドマスターズゲームズの日本開催について
- ⑤事務局体制等

(3) 第3回業務執行理事会議

- ア. 期 日 平成27年7月15日(水) 13時 開会
- イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室
- ウ. 議 題

- ①業務執行状況報告及び事業計画について
- ②契約職員の採用について
- ③事務局体制について
- ④日本ソフトテニス連盟役員について
- ⑤ソフトテニス拠点化について
- ⑥ソフトテニス国際振興について

(4) 第4回業務執行理事会議

- ア. 期 日 平成27年9月28日(月)、29日(火) 17時 開会
- イ. 会 場 和歌山県白浜町ホテルシーモア

ウ. 議 題

- ①業務執行状況報告及び事業計画について
- ②第 15 回世界ソフトテニス選手権大会への日本からの役員派遣について
- ③事務局体制について
- ④役員体制について

(5) 第 5 回業務執行理事会議

ア. 期 日 平成 27 年 12 月 5 日 (土) 11 時 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議 題

- ①業務執行状況報告および事業計画について
- ②平成 27 年度臨時評議員会に向けて

(6) 第 6 回業務執行理事会議

ア. 期 日 平成 28 年 1 月 13 日 (水) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議 題

- ①業務執行状況報告および事業計画について
- ②事務局体制について
- ③ボールオフィシャルサプライヤーについて
- ④「地区等選出理事」および「選考委員会地区選出委員」の選出について
- ⑤「案山子とラケット」非劇場上映会開催 各支部への依頼
- ⑥第 8 回アジア選手権大会の開催地について
- ⑦全日本アンダー14 女子スタッフの交代について
- ⑧規程の改訂について

4. 専門委員会等に関する事項

(1) 各専門委員会等諸会議が、次のとおり開催された。

月	日	専門委員会 (部会) 名	会 場
4	1	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	18	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	29	環境教育プロジェクト委員会	日本連盟会議室
5	7	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	29	IT 部会	日本連盟会議室
6	2	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	20	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	30	機関誌編集部会	日本連盟会議室
7	18	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	19	環境教育プロジェクト委員会	日本連盟会議室
	20	総務委員会・会員登録制度部会	日本連盟会議室

8	3	広報委員会	日本連盟会議室
	3	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	7	競技委員会	日本連盟会議室
	8	審判委員会	日本連盟会議室
	10	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	11	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	18	IT 部会	日本連盟会議室
	27	機関誌編集部会	日本連盟会議室
9	5	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	12	指導委員会	日本連盟会議室
	12	強化委員会	日本連盟会議室
	24	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	24	機関誌編集部会	日本連盟会議室
10	3	生涯スポーツ委員会	日本連盟会議室
	3	プログラム編成部会	千葉県白子町
	10	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	11	国際委員会・国際振興プロジェクト	日本連盟会議室
	17	医科学部会	日本連盟会議室
	27	機関誌編集部会	日本連盟会議室
11	1	環境教育プロジェクト委員会	アワーズイン阪急会議室
	24	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	30	IT 部会	日本連盟会議室
1	16	強化委員会	大阪アカデミア
	16	マネジメント部会	大阪アカデミア
	17	競技者育成推進委員会	大阪中央体育館
	25	会員登録制度部会	日本連盟会議室
	25	IT 部会	日本連盟会議室
	28	機関誌編集部会	日本連盟会議室
2	6	審判委員会	日本連盟会議室
	11	競技委員会・技術等級制度部会	日本連盟会議室
	20	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	22	機関誌編集部会	日本連盟会議室
3	12	医科学部会	日本連盟会議室

(2) 監査等が、次のとおり実施された。

月	日	事業内容	会 場
5	15	公認会計士による会計監査	日本連盟会議室
5	17・18	監事による監査	日本連盟会議室
1	19	公認会計士による期中監査	日本連盟会議室

5. 役員・事務局職員に関する事項

(1) 平成27年度(平成28年度定時評議員会まで)

名誉会長・理事24名

役 職	氏 名		役 職	氏 名	選出母体
名誉会長	海部俊樹				
会 長	表 孟 宏	学識経験者	理 事	安藤正美	四 国
副会長	西村信寛			白水厚二	九 州
副会長	小原信幸			八木橋 勉	全国高体連
専務理事	笠井達夫			林 昭 文	日本中体連
常務理事	和歌浦 信雄	北 信 越		丹崎健一	会長推薦
	柳下秋久	会長推薦		神崎公宏	
理 事	川島 登	北海道・東北		北本英幸	
	石川雅利	関 東		野際照章	
	篠邊 保	東 海		大川京子	
	川西 斎	近 畿		林田正信	
	木原晴彦	中 国		山下晴海	
				玉 木 進	

(2) 平成27年度(平成28年度定時評議員会まで) 監 事 3名

氏 名	支 部	氏 名	支 部	氏 名	支 部
井上清一	石川	萬正一	秋田	山本毅	京都

(3) 平成27年度(平成28年度定時評議員会まで) 評議員 50名

運上琢論(北海道)	新保俊彦(青森)	宮田 勤(岩手)
松田孝志(宮城)	加藤育広(秋田)	柏倉達雄(山形)
小野間幸一(福島)	額賀富雄(茨城)	大久保忠雄(栃木)
佐藤栄一(群馬)	中村 進(埼玉)	堀越 浩(千葉)
佐藤健司(東京)	笠井一栄(神奈川)	向山 淳(山梨)
和歌浦京子(新潟)	堀内 昭(長野)	高辻則夫(富山)
眞島仁志(石川)	川畑 茂(福井)	落合敏男(静岡)
澤田康彦(愛知)	天野晴夫(三重)	木村芳雄(岐阜)
金井 豊(滋賀)	増木博一(京都)	友谷往弘(大阪)
森田賢二(兵庫)	西森卓也(奈良)	花田一弥(和歌山)
安東健司(鳥取)	大地本一到(島根)	竹内英人(岡山)
大前秀樹(広島)	秋枝正文(山口)	岸本正文(徳島)
木下恵司(香川)	越智 朗(愛媛)	横江忠志(高知)
湯田純孝(福岡)	豊福尚弘(佐賀)	馬場信幸(長崎)
岩下敏和(熊本)	福田 茂(大分)	當瀬純一(宮崎)
山口純生(鹿児島)	宮城正彦(沖縄)	宮崎正巳(日学連)
落合 護(高体連)	平野富靖(中体連)	

(4) 平成27年度(平成28年度定時評議員会まで) 専門委員会

総務委員会	委員長	和歌浦 信雄(新潟)	副委員長 丹崎 健一(東京)		
	委員	柳下 秋久(東京)	川島 登(福島)	白水 厚二(大分)	林 昭文(中体連)
		北 正三(埼玉)			
会員登録制度部会	部会長	和歌浦 信雄(新潟)			
	委員	川島 登(福島)	白水 厚二(大分)	林 昭文(中体連)	北 正三(埼玉)
		運上 琢論(北海道)	落合 護(高体連)		
IT部会	部会長	北 正三(埼玉)			
	委員	天野 晴夫(三重)	大野 勝敏(埼玉)	増山 良夫(東京)	

審判委員会	委員長	林田 正信(熊本)	副委員長 今井 史郎(東京)		
	委員	柳下 秋久(東京)	木原 晴彦(広島)	川西 斎(奈良)	安藤 正美(香川)
		山下 晴海(埼玉)	北村 和久(三重)	笛岡 宣明(愛知)	牧 壮一(愛知)
		田村 忠士(広島)	君塚 亮一(神奈川)	木下 道夫(東京)	上山 親子(大阪)
		荒畑 鈴佳(岐阜)			

競技委員会	委員長	柳下 秋久(東京)	副委員長 安藤 正美(香川)		
	委員	山下 晴海(埼玉)	篠邊 保(愛知)	林田 正信(熊本)	長岡 敏久(埼玉)
		今井 史郎(東京)	井上 光子(千葉)		
プログラム編成部会	部会長	長岡 敏久(埼玉)			
	委員	山下 晴海(埼玉)	増山 良夫(東京)	佐藤 健司(東京)	木谷 順三(千葉)
		小笠原 浩二(東京)	中野 吉広(東京)	山口 眞護(東京)	小俣 三男(埼玉)
		木所 一典(栃木)	高川 恵美子(東京)	藤原 芳子(東京)	織原 真由美(東京)
		井上 光子(千葉)	成島 厚子(東京)		
等級制度部会	部会長	今井 史郎(東京)			
	委員	篠邊 保(愛知)	安達 和紀(鳥取)	吉田 茂(福島)	大中和 彦(神奈川)
		木下 道夫(東京)			

強化委員会	委員長	神崎 公宏(三重)	副委員長 北本 英幸(石川)		
	委員	篠邊 保(愛知)	野際 照章(京都)	石井 源信(東京)	斉藤 広宣(千葉)
		田中 弘(東京)	中堀 成生(広島)	高川 経生(東京)	
医科学部会	部会長	石井 源信(東京)			
	委員	永井 博典(東京)	山本 裕二(愛知)	水野 哲也(千葉)	工藤 敏巳(宮城)
		出家 正隆(広島)	藤島 淑子(東京)	楠堀 誠司(広島)	井田 博史(東京)
		川上 晃司(兵庫)	守重 昌彦(東京)	見附 祥子(広島)	川野 因(神奈川)
		永野 康治(新潟)	村山 孝之(石川)	福原 和伸(東京)	山田 隆(東京)

指導委員会	委員長	野際 照章(京都)	副委員長 北本 英幸(石川)		
	委員	神崎 公宏(三重)	篠邊 保(愛知)	小野寺 剛(東京)	安達 和紀(鳥取)
		小西 俊博(香川)	武田 博子(京都)	井田 博史(東京)	松口 康彦(神奈川)
		浅川 陽介(東京)			

生涯スポーツ委員会	委員長	大川 京子(千葉)	副委員長 石川 雅利(千葉)		
	委員	川西 齊(奈良)	白水 厚二(大分)	林 昭文(中体連)	本田 茂雄(宮城)
		金岡 昭房(宮城)	落合 護(高体連)		
小学生部会	部会長	金岡 昭房(宮城)			
	委員	石川 雅利(千葉)	松口 康彦(神奈川)	芝地 康幸(兵庫)	廣島 義清(北海道)
		國枝 俊子(岐阜)	川並 久美子(和歌山)	中村 正広(福岡)	小西 俊博(香川)
畠山 洋二(広島)		小野 道康(新潟)			
シニア部会	部会長	本田 茂雄(宮城)			
	委員	川西 齊(奈良)	白水 厚二(大分)	時任 宥幸(東京)	保倉 謙治(埼玉)
		山村 嘉一(千葉)	横野 久美子(愛知)	佐藤 健司(東京)	

国際委員会	委員長	丹崎 健一(東京)	副委員長 玉木 進(東京)		
	委員	木原 晴彦(広島)	山口 正紀(広島)	福崎 穰司(広島)	蒲原 英敏(広島)
		古賀 俊彦(京都)	松井 愛美(神奈川)	関川 丈彦(新潟)	安達 和紀(鳥取)
		赤須 由佳(三重)			

広報委員会	委員長	玉木 進(東京)	副委員長 山下 晴海(埼玉)		
	委員	柳下 秋久(東京)	石川 雅利(千葉)	中山 俊介(東京)	萩原 廣一(神奈川)
		北 正三(埼玉)	大野 勝敏(埼玉)	井上 光子(千葉)	
機関誌編集部会	部会長	山下 晴海(埼玉)			
	委員	石川 雅利(千葉)	鈴木 学(埼玉)	近藤 貴予(東京)	井上 光子(千葉)
		赤井 宏司(東京)			

アンチドーピング委員会	委員長	北本 英幸(石川)	副委員長 玉木 進(東京)		
	委員	丹崎 健一(東京)	永井 博典(東京)	藤島 淑子(東京)	川上 晃司(兵庫)
		見附 祥子(広島)	上遠野 久美(福島)		

《特別委員会》

競技者資格委員会	委員長	表 孟宏(兵庫)	副委員長 笠井 達夫(神奈川)		
	委員	西村 信寛(東京)	小原 信幸(岡山)	和歌浦 信雄(新潟)	柳下 秋久(東京)
		大川 京子(千葉)	林 昭文(中体連)	八木橋 勉(高体連)	

倫理委員会	委員長	西村 信寛(東京)	副委員長 笠井 達夫(神奈川)		
	委員	小原 信幸(岡山)	和歌浦 信雄(新潟)	柳下 秋久(東京)	

競技者育成プログラム 推進委員会	委員長	笠井達夫(神奈川)	副委員長 山下晴海(埼玉)		
	委員	柳下秋久(東京)	篠邊保(愛知)	木原晴彦(広島)	白水厚二(大分)
		八木橋勉(高体連)	林昭文(中体連)	神崎公宏(三重)	野際照章(京都)
		北本英幸(石川)	丹崎健一(東京)	井上創(兵庫)	林研一(日学連)
競技者育成部会	部会長	神崎公宏(三重)			
	委員	斉藤広宣(千葉)	田中弘(東京)	小野寺剛(東京)	小峯秋二(富山)
		池田征弘(京都)	岡村勝幸(山梨)	篠邊保(愛知)	安達和紀(鳥取)
指導者育成部会	部会長	野際照章(京都)			
	委員	神崎公宏(三重)	北本英幸(石川)	斉藤広宣(千葉)	田中弘(東京)
		川並久美子(和歌山)	伊東健(岩手)		
マネジメント部会	部会長	井上創(兵庫)			
	委員	手嶋信彦(広島)	天野晴夫(三重)	増田大吾(神奈川)	溝渕俊二(和歌山)
		西木宏(徳島)	岩下敏和(熊本)	千葉英明(宮城)	山田浩一(石川)

用具施設検討委員会	委員長	笠井達夫(神奈川)	副委員長 柳下秋久(東京)		
	委員	玉木進(東京)	山下晴海(埼玉)	今井史郎(東京)	

国際振興プロジェクト	委員長	笠井達夫(神奈川)	副委員長 丹崎健一(東京)		
	委員	玉木進(東京)	橋本貞夫(神奈川)	佐々木寿(北海道)	古賀俊彦(京都)

環境・教育 プロジェクト	委員長	川島登(福島)		副委員長 篠邊保(愛知)	
	委員	柳下秋久(東京)	安藤正美(香川)	林田正信(熊本)	大川京子(千葉)
		八木橋勉(高体連)	林昭文(中体連)	金岡昭房(宮城)	林研一(日学連)

東京オリンピック対策 プロジェクト	委員長	笠井達夫(神奈川)		副委員長 佐藤健司(東京)	
	委員	丹崎健一(東京)	玉木進(東京)	内田裕行(東京)	柳澤昌彦(東京)
		横山隆二(東京)			

(5) 平成27年度(平成28年度定時評議員会まで)

顧問・参与・事務局職員

《顧問》

中屋 卯三郎	倉田 裕司	松田 謙治	奥田 忠雄 (平成27年10月22日逝去)	内田 昌一
北村 和久				

《参与》

重田 衛	長瀬 泰彦	水野 明人	米山 勉	酒井 薫
高松 政男	松田 信穂	中山 昌作	内藤 享佑	伊野 二彦
吉田 敏彦	西田 豊明	本田 茂雄	宮下 恭子	藤原 伸二 (平成28年4月23日逝去)
星野 博	斉藤 元三	吉田 博紀		

〈事務局職員〉

事務局長	笠井達夫(専務理事)	職 員	荒木 朋子	平成3年5月1日～
	平成25年4月1日～ 平成27年6月14日まで		竹田 稔	平成10年4月1日～ 平成27年7月9日まで
	柳下 秋久		大八木 洋子	平成13年4月1日～
平成27年6月15日～	堀内 大		平成26年1月14日～	
事務局次長	玉木 進		斐 浚賢	平成26年1月14日～ 平成27年6月15日まで
	平成24年7月1日～		中山 圭	平成27年9月1日～
			矢田 悦子	平成27年9月1日～ 平成28年2月29日まで

- ※ 顧問弁護士 鈴木 孝雄氏
- ※ 公認会計士 櫻井 資悦氏
- ※ 税理士 加藤 貴大氏(税理士法人みなと財務)

6. 会員登録に関する事項

(1) 年度別会員登録人数

(数値：人数)

種別	指導者	一般	小学生	中学生	高校生	高専	大学生	合計
平成 27 年度	10,572	46,683	19,412	288,530	84,365	1,023	7,690	458,275
平成 26 年度	9,963	47,230	17,566	289,506	82,964	1,056	7,669	455,954
平成 25 年度	9,268	48,324	17,260	286,326	81,402	1,037	7,610	451,227
平成 24 年度	8,751	49,279	17,174	284,478	82,510	1,005	7,800	450,997
平成 23 年度	7,771	50,221	17,298	284,886	81,730	918	8,076	450,900
平成 22 年度	6,885	51,525	18,083	285,617	83,555	950	8,492	455,107
平成 21 年度	5,482	51,214	17,986	291,640	85,841	846	8,499	461,508
平成 20 年度	3,291	51,436	17,408	279,203	87,243	810	8,288	447,679
平成 19 年度	0	54,239	17,415	269,939	91,165	385	7,543	440,686
平成 18 年度	0	53,787	17,742	240,872	93,199	373	7,567	413,540

(注) 都道府県別会員数は別表 4 (P54) に掲載。平成 20 年度より指導者区分を設置。

7. 分担金に関する事項

(1) 支部分担金

一律 150,000 円 × 50 支部 7,500,000 円

(2) 会員登録料

(単位：円)

種別	指導者	一般	小学生	中学生	高校生	高専	大学生	合計
平成 27 年度	10,572,000	46,683,000	9,706,000	144,265,000	42,182,500	511,500	3,845,000	257,765,000
平成 26 年度	9,963,000	47,230,000	8,783,000	144,753,000	41,482,000	528,000	3,834,500	256,573,500

(3) 維持会費

ア. 公認メーカー

24 社：延べ 48 社（前年度 47 社）

(単位：円)

用具・用品	金額	公認メーカー
ラケット 9 社	900,000	カワサキ・ミズノ・ヨネックス・ゴーセン・ヒロウン ダンロップスポーツ・グローブライド・ティエムシー・ ジャパーナ
ボール 3 社	8,280,000	昭和ホールディングス・ナガセケンコー・ダンロップスポー ツ
ネット 8 社	800,000	鐘屋産業・アシックス・寺西喜商店・ミセキネット・ 昭和ホールディングス・高須賀・ティエヌネット・鶴沢ネット
ストリング 5 社	3,300,000	ゴーセン・東亜ストリング・ヨネックス・ダンロップスポー ツ・ミズノ
ユニフォーム 12 社	13,050,000	カワサキ・ミズノ・昭和ホールディングス・ヨネックス・ゴー セン・アシックス・ゴールドウィン・ナイキジャパン・ダン ロップスポーツ・アディダスジャパン・グローブライド・ ニューバランスジャパン

シューズ	11社	4,960,000	アシックス・ヨネックス・ナイキジャパン・アディダスジャパン・ダンロップスポーツ・ミズノ・グローブライド・ゴールドウィン・ニューバランスジャパン・アメアスポーツジャパン・ディアドラジャパン
計		31,290,000	

イ. 施設業者 7社：延べ 8社（前年度 7社） (単位：円)

施設・製造	金額	業者名
砂入り人工芝製造業者 7社	3,500,000	住友ゴム工業・積水樹脂・大塚ターフテック 東レ アムテックス・エスディーテック・大嘉産業・泉州敷物
人工クレーコート製造業者 1社	500,000	大塚ターフテック
計	4,000,000	

ウ. 一般 14団体 81名 計 1,120,000円（前年度 16団体 81名 計 1,290,000円）

50,000	内田昌一	京都						
40,000	丸菱産業(株)							
30,000	表 孟宏	兵庫	西村信寛	東京	小原信幸	岡山	笠井達夫	神奈川
	稲門軟式庭球クラブ							
20,000	ミズノ(株)		ヨネックス(株)		(株)ダンロップスポーツ		サンコーマーク(株)	
	石川県連盟		(株)トーカイ		しゅくみねっと(株)		三田ソフトテニス倶楽部	
	高須賀(株)							
10,000	倉田裕司	大阪	奥田忠雄	岐阜	北村和久	三重	高松政男	栃木
	松田信穂	千葉	吉田敏彦	京都	西田豊明	東京	本田茂雄	宮城
	宮下恭子	大阪	藤原伸二	千葉	星野 博	東京	齋藤元三	愛知
	吉田博紀	熊本	和歌浦信雄	新潟	柳下秋久	東京	川島 登	福島
	石川雅利	千葉	篠邊 保	愛知	川西 斎	奈良	木原晴彦	広島
	安藤正美	香川	白水厚二	大分	八木橋勉	埼玉	林 昭文	東京
	丹崎健一	東京	神崎公宏	三重	北本英幸	石川	野際照章	京都
	大川京子	千葉	林田正信	熊本	山下晴海	埼玉	玉木 進	東京
	井上清一	石川	山本 毅	京都	萬 正一	秋田	本川正明	愛知
	原田公夫	鳥取	今井誠則	広島	今井史郎	東京	田中美明	埼玉
	佐藤栄一	群馬	中村 進	埼玉	佐藤健司	東京	天野晴夫	三重
	木村芳雄	岐阜	大前秀樹	広島	豊福尚弘	佐賀	大西正明	山形
	蒲原英敏	広島	上山親子	大阪	長岡敏久	埼玉	山口眞護	東京
	藤島淑子	東京	川上晃司	兵庫	斉藤広宣	千葉	小西俊博	香川
武田博子	広島	保倉謙治	埼玉	金岡昭房	宮城	國枝俊子	岐阜	

	中村正広	福岡	小野道康	新潟	山口正紀	広島	佐々木寿	北海道
	中山俊介	東京	井上光子	千葉	井上 創	兵庫	ナガセケンコー(株)	
	(株)ルーセント		ゴーセン(株)					

8. 補助金・助成金等に関する事項

(1) 補助金 合計額 13,049,000 円 (前年度 6,972,000 円)

(公財) 日本オリンピック委員会	選手強化事業	12,930,000
宮崎観光コンベンション協会	スポーツメディカル支援事業	119,000

(2) 助成金 合計額 62,647,150 円 (前年度 59,390,440 円)

(独法) 日本スポーツ振興センター (スポーツ振興基金助成金)	競技会開催 (全日本選手権大会)	2,248,000
	競技会開催 (JOC ジュニアオリンピック カップ/全日本ジュニア選手権大会)	1,198,000
	競技会開催 (アジア選手権大会日本代表予選 会)	1,213,000
	指導者研修会	1,138,000
	小計	5,797,000
(独法) 日本スポーツ振興センター (スポーツ振興くじ)	競技者育成プログラム (Step-1~Step-3)	49,210,000
	ドーピング検査	5,009,000
	小計	54,219,000
紀の国わかやま国体・紀の国わかや ま大会実行委員会	国民体育大会役員旅費	881,150
(公財) ヨネックススポーツ財団	全日本若手キャンプ助成金	750,000
(公財) ミズノスポーツ振興財団	ジュニア育成に対する助成金	1,000,000

(3) 交付金 合計額 6,541,900 円 (前年度 4,303,104 円)

(公財) 日本オリンピック委員会	マーケティングプログラム交付金	5,866,000
	JOC ジュニア選手強化交付金	200,000
(公財) 日本体育協会	日本スポーツマスターズ 運営補助交付金	362,020
	スポーツ指導者育成交付金	113,880

(4) 委託金 合計額 3,117,230 円 (前年度 2,018,666 円)

(公財) 日本体育協会	日本スポーツマスターズ 委託金	2,525,840
	コーチ養成講習会委託金	591,390

9. 寄付金・協賛金に関する事項

(1) 協賛金 合計額 39,650,000 円 (前年度 27,150,000 円)

(単位：円)

ミズノ(株)「日本代表チームユニフォームオフィシャルサプライヤー協賛金」	10,000,000
ミズノ(株)「広報活動協賛金」	10,000,000
ミズノ(株)「国際振興協賛金」	3,000,000
ミズノ(株)「全日本インドア選手権大会協賛金」	250,000
ヨネックス(株)「日本代表チームストリングオフィシャルサプライヤー協賛金」	5,500,000
ナガセケンコー(株)「競技者育成プログラム STEP-4 協賛金」	1,300,000
昭和ホールディングス(株)「競技者育成プログラム STEP-4 協賛金」	1,300,000
ダンロップスポーツ(株)「主催大会・国際振興協賛金」	8,300,000

(2) 新規公認 合計額 5,000,000 円 (前年度 5,000,000 円)

(単位：円)

(株)ニューバランスジャパン「ユニフォーム」	5,000,000
------------------------	-----------

(3) 公認 合計額 500,000 円 (前年度 0 円)

(株)ディアドラ・ジャパン「シューズ」	500,000
---------------------	---------

10. 傷害補償制度の給付金に関する事項

52 件、2,164,000 円を給付した。(前年度：34 件 1,487,000 円)

(単位：件)

傷害の内容	一般	大学生	高専	高校生	中学生	小学生	計
アキレス腱断裂	15						15
骨折	8			1	1	1	11
靭帯損傷	6	1			3		10
肉離れ	6						6
その他	6			1		2	9
死亡	1						1
計	42	1		2	4	3	52

大会一覧表

別表1

月	日	大会名	種別	会場	参加者数
5	16・17	第22回全日本シングルス選手権大会	男子シングルス	千葉県千葉市	236
			女子シングルス	フクダ電子ヒルスコート	206
			小計		442
6	25～28	第44回ハイスクールジャパンカップ	男子ダブルス	北海道札幌市 円山庭球場	144
			女子ダブルス		144
			男子シングルス		64
			女子シングルス		64
			小計		416
	27・28	西日本シニア選手権大会	シニア男45	福岡県福岡市 博多の森テニス競技場 春日公園テニス場	88
			シニア女45		66
			シニア男50		108
			シニア女50		72
			シニア男55		122
			シニア女55		122
			シニア男60		146
			シニア女60		120
			シニア男65		96
			シニア女65		114
			シニア男70		78
			シニア女70		66
			シニア男75		40
			シニア女75		16
シニア男80	18				
シニア女80	14				
小計		1,286			
7	11・12	第70回東日本選手権大会	一般男子	千葉県白子町 白子町サニーテニスコート他	598
			一般女子		308
			成年男子		160
			成年女子		58
			シニア男45		106
			シニア女45		74
			シニア男50		104
			シニア女50		88
			シニア男55		104
			シニア女55		102
			シニア男60		140
			シニア女60		102
			シニア男65		114
			シニア女65		120
			シニア男70		96
	シニア女70	78			
	シニア男75	52			
	シニア女75	34			
	小計		2,438		
	18・19	第69回西日本選手権大会	一般男子	熊本県熊本市	406
一般女子			総合運動公園メインテニスコート	246	
成年男子			パークドーム熊本	112	
成年女子				28	
小計			792		

7	24~26	男子第60回 女子第59回 全日本実業団選手権大会	男子団体	岩手県北上市 和賀川グリーンパークテニスコート	1,241
			女子団体	岩手県一関市 一関運動公園テニスコート	152
			小計		1,393
	7/30 ~8/2	第32回全日本小学生選手権大会	男子個人	富山県高岡市	384
			男子団体	高岡市テニスコート	384
			女子個人	高岡市営前田庭球場	384
			女子団体		384
	小計		1,536		
	28~31	全日本高校選手権大会	男子個人		636
			男子団体	奈良県明日香村	384
女子個人			橿原公苑明日香庭球場	632	
女子団体				384	
小計		1,016			
8	1~4	第42回全日本レディース(個人戦)	ふじ(初心者)		120
			すみれ(満20歳以上)	新潟県新潟市	34
			ばら(40歳以上)	新潟市庭球場	76
			ゆり(50歳以上)	新潟県上越市	86
			きく(55歳以上)	上越総合運動公園テニスコート	164
			あやめ(60歳以上)	新潟県長岡市	298
			はぎ(65歳以上)	長岡市営希望が丘テニス場	278
			さつき(70歳以上)	新潟県燕市	230
			さくら(75歳以上)	燕市スポーツパーク市民テニスコート	100
			もも(80歳以上)		72
小計		1,458			
8	4~10	全日本学生選手権大会 第69回文部科学大臣杯(大学対抗) 第70回三笠宮賜杯(ダブルス) 第57回全日本学生シングルス選手権大会	男子大学対抗	山形県山形市 山形市総合スポーツセンターテニスコート	462
			女子大学対抗	山形県総合運動公園テニスコート	342
			男子ダブルス	山形県天童市	942
			女子ダブルス	天童市スポーツセンターテニスコート	606
			男子シングルス	大森公園パークテニスコート	109
			女子シングルス		98
	小計		2,559		
	21~23	第46回全国中学校大会	男子個人		128
			女子個人	山形県山形市	128
			男子団体	山形県総合運動公園テニスコート	200
女子団体				200	
小計		656			
22・23	第37回全日本レディース決勝大会 (都道府県対抗団体戦)	都道府県対抗	宮城県仙台市 泉庭球場、シェルコムせんだい	528	
9	5・6	第43回全日本社会人選手権大会	一般男子	愛媛県松山市	568
			一般女子	松山市中央公園テニスコート	268
			成年男子	松山市空港第4テニスコート	214
			成年女子	松山大学御幸テニスコート	40
			小計		1,090
	11~13	第19回全日本シニア選手権大会	男子45		140
			女子45	宮城県仙台市	78
			男子50	宮城テニスコート	130
			女子50	青葉山公園庭球場	94
			男子55	川内庭球場	160
女子55			泉庭球場	128	
男子60	シェルコムせんだい	214			
女子60		166			

9	11~13	第19回全日本シニア選手権大会	男子65		176			
			女子65		138			
			男子70		140			
			女子70		106			
			男子75		72			
			女子75		42			
			男子80		26			
			女子80		26			
			混合45		52			
			混合50		60			
			混合55		104			
			混合60		136			
			混合65		146			
			小計				2,334	
9	19~20	第22回JOC杯・全日本ジュニア選手権大会	男子シングルス(U-14)	広島県広島市 広島市中央庭球場	20			
			女子シングルス(U-14)		23			
			男子シングルス(U-17)		32			
			女子シングルス(U-17)		31			
			男子シングルス(U-20)		22			
			女子シングルス(U-20)		30			
			男子ダブルス(U-14)		20			
			女子ダブルス(U-14)		22			
			男子ダブルス(U-17)		32			
			女子ダブルス(U-17)		32			
			男子ダブルス(U-20)		22			
			女子ダブルス(U-20)		30			
			小計				316	
			19~21		日本スポーツマスターズ2015	都道府県対抗	石川県能登町 能都健民テニスコート	396
27~30	第70回国民体育大会	少年男子	和歌山県白浜町 白浜町テニスコート	144				
		少年女子		96				
		成年男子		282				
		成年女子		126				
		小計				648		
10	23~25	第70回天皇賜杯皇后賜杯 全日本選手権大会	男子	滋賀県長浜市	366			
			女子	長浜市民庭球場	352			
小計				718				
10/30 ~ 11/1	第29回日本実業団リーグ	男子団体	京都府福知山市	308				
		女子団体	三段池公園テニスコート・市民運動場庭球場	74				
		小計				382		
10/31 ~ 11/1	第22回全日本クラブ選手権大会	男子団体	千葉県白子町	1,453				
		女子団体	白子町サニーテニスコート他	435				
		小計				1,888		
11	7・8	第8回アジア選手権大会日本代表予選会	男子	大阪府大阪市	96			
			女子	靱テニスセンター	98			
			小計				194	
13~16	第10回ジュニアジャパンカップ	男子シングルス(U-14)	宮崎県宮崎市 生目の杜運動公園テニスコート 久峰総合公園テニスコート	40				
		女子シングルス(U-14)		40				
		男子シングルス(U-17)		43				
		女子シングルス(U-17)		45				
		男子シングルス(U-20)		24				
		女子シングルス(U-20)		35				
		男子ダブルス(U-14)		40				
		女子ダブルス(U-14)		42				

11	13~16	第10回ジュニアジャパンカップ	男子ダブルス(U-17)		44
			女子ダブルス(U-17)		46
			男子ダブルス(U-20)		32
			女子ダブルス(U-20)		38
			小計		
12	17~20	第33回日本リーグ	男子	愛知県豊田市	78
			女子	スカイホール豊田	64
			小計		
1	17	第61回全日本インドア選手権	男子	大阪府大阪市	24
			女子	大阪市中央体育館	24
			小計		
2	14	日本リーグ入替戦	男子	愛知県名古屋市 露橋スポーツセンター	40
			小計		
	27	第8回アジア選手権大会日本代表予選会	男子	岐阜県岐阜市	8
			女子	長良川テニスプラザ	8
			小計		
3	26~28	第27回都道府県対抗全日本中学生大会	男子団体		384
			女子団体	三重県伊勢市	384
			男子ダブルス	三重県営サンアリーナ	288
			女子ダブルス	三重交通Gスポーツの杜伊勢体育館	288
			男子シングルス	伊勢市営庭球場	96
			女子シングルス		96
			小計		
	28~30	第41回全日本高等学校選抜大会	男子団体	愛知県名古屋市	576
			女子団体	日本ガイシスポーツプラザ	576
			小計		
	29~31	第15回全国小学生大会	男子6年生の部		88
			女子6年生の部	千葉県白子町	88
			男子5年生の部	白子町サニーテニスコート他	330
女子5年生の部				350	
男子4年生以下の部				340	
女子4年生以下の部				340	
小計			1,536		

技術等級認定実績

別表2

平成28年3月31日現在

支部名	名誉指導員	Ma	Ex	S-Ex	Sp	S-Sp	1級	2級	3級	4級	合計
1 北海道	0	0	4	0	2	3	3	31	19	0	62
2 青森県	0	0	2	0	5	0	1	11	61	68	148
3 岩手県	0	0	0	1	2	0	0	17	24	0	44
4 宮城県	0	0	3	1	7	0	5	11	27	0	54
5 秋田県	0	0	0	0	8	0	0	9	27	0	44
6 山形県	0	0	0	0	5	0	5	10	46	0	66
7 福島県	0	0	3	0	7	0	5	13	68	0	96
8 茨城県	0	0	0	0	5	0	7	8	43	7	70
9 栃木県	0	0	0	1	6	0	1	109	42	28	187
10 群馬県	0	0	0	0	9	0	6	21	23	36	95
11 埼玉県	0	0	1	0	20	6	32	63	53	59	234
12 千葉県	0	0	1	1	13	0	5	21	0	28	69
13 東京都	0	0	3	1	9	1	20	33	27	33	127
14 神奈川県	0	0	5	0	8	0	2	46	38	0	99
15 山梨県	0	0	0	0	2	0	8	45	37	96	188
16 新潟県	0	0	0	0	4	0	4	18	23	0	49
17 長野県	0	0	0	0	4	1	8	8	52	2,136	2,209
18 富山県	0	0	2	0	6	0	7	9	6	33	63
19 石川県	0	0	0	0	3	0	1	7	29	8	48
20 福井県	0	0	0	0	1	0	6	3	0	35	45
21 静岡県	0	0	0	0	5	2	11	15	40	2	75
22 愛知県	0	0	0	6	11	7	10	54	50	129	267
23 三重県	0	0	2	0	22	0	5	17	15	19	80
24 岐阜県	0	0	1	0	7	0	10	30	40	21	109
25 滋賀県	0	0	0	0	6	0	12	20	24	0	62
26 京都府	0	0	3	0	2	1	0	12	9	19	46
27 大阪府	0	0	6	3	12	0	7	70	31	6	135
28 兵庫県	0	0	4	2	2	1	18	54	16	15	112
29 奈良県	0	0	4	0	14	0	4	0	24	0	46
30 和歌山県	0	0	4	0	7	0	0	4	29	69	113
31 鳥取県	0	0	0	0	1	0	0	8	5	19	33
32 島根県	0	0	0	0	4	0	10	4	1	17	36
33 岡山県	0	0	0	0	12	0	12	40	26	0	90
34 広島県	0	0	3	1	9	1	10	54	18	0	96
35 山口県	0	0	0	0	3	0	26	66	29	0	124
36 徳島県	0	0	0	0	7	1	5	10	27	0	50
37 香川県	0	0	2	0	4	0	0	3	14	8	31
38 愛媛県	0	0	0	0	4	0	12	3	24	35	78
39 高知県	0	0	0	0	0	0	0	1	2	8	11
40 福岡県	0	0	2	1	13	0	6	22	24	0	68
41 佐賀県	0	0	1	0	0	0	0	2	35	0	38
42 長崎県	0	0	1	0	1	0	3	10	21	27	63
43 熊本県	0	0	0	0	5	0	12	91	263	325	696
44 大分県	0	0	0	0	2	0	2	2	7	30	43
45 宮崎県	0	0	0	0	1	0	5	62	34	0	102
46 鹿児島県	0	0	2	1	6	0	2	3	33	0	47
47 沖縄県	0	0	0	0	2	0	1	2	21	0	26
48 日本学連	0	0	20	0	72	0	19	27	0	0	138
合計	0	0	79	19	360	24	328	1,179	1,507	3,316	6,812
前年度	1	0	78	19	399	13	295	1,195	1,532	3,183	6,715

公認審判員認定実績

別表3

平成28年3月31日現在

No	支部	認定者数									合計
		マスター レフェリー	マスター アンパイヤー	1級審判員		2級審判員				ジュニア	
				新規	更新	一般		高校			
						新規	更新	新規	移行		
1	北海道	4	0	2	6	138	192	318	667	2,337	3,664
2	青森県	0	1	0	4	70	142	250	68	399	934
3	岩手県	0	0	3	8	108	91	126	578	1,379	2,293
4	宮城県	2	0	2	6	103	103	669	183	1,626	2,694
5	秋田県	0	0	0	9	126	57	114	352	916	1,574
6	山形県	1	0	1	9	93	50	246	259	926	1,585
7	福島県	0	0	3	2	121	55	125	530	2,441	3,277
8	茨城県	7	0	2	6	81	113	779	102	305	1,395
9	栃木県	4	2	3	5	50	80	413	61	125	743
10	群馬県	2	4	2	3	72	139	392	101	231	946
11	埼玉県	1	0	0	11	271	549	1,096	615	3,383	5,926
12	千葉県	0	0	2	7	216	246	703	577	3,663	5,414
13	東京都	6	20	1	2	249	230	162	51	58	779
14	神奈川県	1	1	2	8	102	76	146	608	7,403	8,347
15	山梨県	1	0	1	1	104	51	296	38	90	582
16	新潟県	1	9	1	5	48	113	116	414	2,472	3,179
17	長野県	0	0	2	3	61	243	465	39	84	897
18	富山県	2	0	6	1	100	24	258	0	36	427
19	石川県	0	0	2	1	60	59	68	241	136	567
20	福井県	1	0	3	0	22	28	92	24	107	277
21	静岡県	0	15	3	5	136	232	148	431	3,664	4,634
22	愛知県	6	4	1	6	208	251	1,112	14	141	1,743
23	三重県	2	0	2	1	51	58	205	56	118	493
24	岐阜県	0	0	1	7	46	49	283	80	264	730
25	滋賀県	0	1	0	2	62	37	587	41	56	786
26	京都府	2	0	0	2	67	77	424	33	147	752
27	大阪府	1	3	0	5	66	187	216	24	62	564
28	兵庫県	1	0	2	2	195	124	77	7	40	448
29	奈良県	1	0	2	2	66	140	343	0	24	578
30	和歌山県	1	0	4	3	18	68	8	15	125	242
31	鳥取県	0	0	3	10	22	36	13	22	36	142
32	島根県	0	0	2	4	20	23	296	23	124	492
33	岡山県	1	3	6	9	47	44	176	71	155	512
34	広島県	2	0	6	4	56	160	969	73	73	1,343
35	山口県	0	0	0	2	95	124	387	63	198	869
36	徳島県	0	0	0	1	15	18	178	0	110	322
37	香川県	1	0	2	3	59	30	248	45	134	522
38	愛媛県	0	0	9	3	61	85	34	32	307	531
39	高知県	1	0	0	3	21	22	105	23	11	186
40	福岡県	1	0	1	2	136	157	387	87	466	1,237
41	佐賀県	2	0	2	2	22	54	39	264	1,097	1,482
42	長崎県	2	3	0	3	192	90	88	306	1,433	2,117
43	熊本県	0	0	0	7	41	69	177	412	1,592	2,298
44	大分県	1	4	0	1	37	47	70	29	235	424
45	宮崎県	1	0	0	5	50	12	28	19	227	342
46	鹿児島県	1	0	3	5	83	144	112	40	175	563
47	沖縄県	0	0	0	0	2	51	28	41	190	312
48	日本学連	0	0	1	0	751	539	0	0	0	1,291
合計		60	70	88	196	4,820	5,569	13,572	7,759	39,321	71,455
前年度		58	42	79	169	4,494	4,735	13,469	6,787	39,657	69,490

会員登録集計表（平成27年度）

別表4

平成28年3月31日現在

支部名	指導者	一般		小学生		中学生		高校生		高専		大学生		合計	
		会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数
北海道	258	176	2,212	38	591	270	8,106	148	3,398	5	96	0	9	637	14,670
青森	291	49	505	17	270	101	3,793	44	923	1	4	1	12	213	5,798
岩手	339	59	1,072	30	433	130	4,324	69	1,851	1	26	0	16	289	8,061
宮城	118	73	855	21	525	169	5,140	77	2,457	2	38	1	19	343	9,152
秋田	235	36	518	15	353	75	2,449	42	1,051	1	10	0	2	169	4,618
山形	173	39	540	19	475	70	3,054	43	1,280	1	8	0	0	172	5,530
福島	407	70	683	27	631	153	6,968	73	1,700	1	42	0	4	324	10,435
茨城	435	70	854	23	689	199	9,594	81	2,255	0	0	0	1	373	13,828
栃木	35	37	770	19	412	124	5,507	51	1,302	0	20	0	25	231	8,071
群馬	156	46	963	21	744	150	7,141	50	1,284	1	11	0	5	268	10,304
埼玉	222	208	3,859	34	1,150	371	19,333	129	4,433	0	7	0	168	742	29,172
千葉	747	115	1,848	21	517	336	17,703	117	3,293	1	4	0	19	590	24,131
東京	192	134	2,950	25	434	237	7,497	178	4,531	1	10	0	110	575	15,724
神奈川	566	97	1,106	14	425	357	20,695	127	2,995	0	0	0	14	595	25,801
山梨	59	48	538	15	369	48	1,034	31	892	0	0	0	15	142	2,907
新潟	221	55	839	24	511	159	5,142	65	1,390	1	22	0	4	304	8,129
長野	158	35	1,375	19	470	121	4,787	72	1,547	1	13	0	7	248	8,357
富山	120	23	380	17	410	59	2,411	28	852	0	0	0	1	127	4,174
石川	73	47	634	22	437	69	3,657	37	1,150	2	14	1	43	178	6,008
福井	44	36	393	5	190	39	1,435	16	583	1	4	0	6	97	2,655
静岡	646	132	1,532	27	854	315	14,028	81	1,568	1	17	1	23	557	18,668
愛知	251	174	3,063	21	740	347	19,505	143	5,925	0	33	0	41	685	29,558
三重	97	48	616	15	388	148	6,790	48	1,339	1	11	0	14	260	9,255
岐阜	57	59	875	29	675	260	7,052	50	1,870	0	13	0	16	398	10,558
滋賀	89	32	515	12	445	73	1,008	40	1,589	0	0	0	15	157	3,661
京都	120	83	806	15	430	115	3,786	54	1,523	0	0	0	1	267	6,666
大阪	279	93	1,664	12	255	298	10,688	186	3,228	0	0	0	2	589	16,116
兵庫	234	78	1,427	18	328	304	16,800	146	4,982	2	39	0	2	548	23,812
奈良	138	36	917	9	166	67	2,939	27	988	0	0	0	1	139	5,149
和歌山	145	53	692	16	296	111	3,712	30	888	1	31	0	0	211	5,764
鳥取	85	35	411	12	171	35	1,271	23	481	1	9	0	0	106	2,428
島根	88	48	389	12	304	49	1,841	39	858	1	2	0	0	149	3,482
岡山	158	64	623	12	246	140	6,270	67	2,038	1	34	0	0	284	9,369
広島	210	115	1,325	14	248	138	5,413	99	2,778	2	63	1	55	369	10,092
山口	164	69	1,210	10	378	109	4,806	52	1,730	3	69	1	28	244	8,385
徳島	153	22	313	8	142	100	2,398	26	504	1	30	0	2	157	3,542
香川	45	30	380	10	282	46	2,339	30	745	2	9	0	1	118	3,801
愛媛	153	34	608	13	293	129	4,252	64	1,367	1	64	0	0	241	6,737
高知	50	25	325	13	175	36	1,084	23	440	1	9	0	6	98	2,089
福岡	541	82	1,062	17	393	191	7,384	143	2,812	4	78	0	73	437	12,343
佐賀	224	22	346	14	332	74	3,074	39	904	0	0	0	1	149	4,881
長崎	432	56	895	16	305	148	4,878	102	1,964	2	34	0	62	324	8,570
熊本	456	68	918	18	371	147	5,102	59	1,518	2	47	1	4	295	8,416
大分	193	58	600	9	163	99	2,620	27	642	0	24	0	42	193	4,284
宮崎	307	54	533	23	472	160	3,474	37	878	1	22	0	1	275	5,687
鹿児島	327	110	1,074	38	406	188	5,066	76	1,286	2	36	1	3	415	8,198
沖縄	80	42	670	11	118	47	1,180	29	350	0	0	0	27	129	2,425
日本学連	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	20	430	6,790	431	6,814
合計	10,572	3,176	46,683	850	19,412	7,111	288,530	3,218	84,365	49	1,023	438	7,690	14,842	458,275
昨年度	9,963	3,179	47,230	819	17,566	7,137	289,506	3,234	82,964	46	1,056	447	7,669	14,862	455,954